

●文 學

單 行 本

一、總 記

昨年度に引き續き、本年度の學會展望（文學）分野は、國學院大學文學部中國文學科の赤井益久が大學院諸兄の協力を得て擔當する。分類などについては出版委員會において定められた方式に従い、作成に至る基準はおおむね以下のごとくである。

- ① 目録の掲載は、會員からの報告書・メールなどの「自己申告」を基本とし、擔當者が調査の及ぶ範囲で補充する。
  - ② 収録対象となる発行期限は、二〇〇三年一月から十二月までに刊行されたものとする。
  - ③ 収録対象となる刊行物は、日本國內発行のもので、發表言語は問わない。
  - ④ 分類は従來の十二分類に収録し、内容的に重複する分野については、それぞれに収録する。
  - ⑤ 各分野の配列は、著者・編者・譯者等の氏名五十音順による。
- 郵便やメールにより、會員各位より多くの自己申告および抜き刷りをお寄せ頂き、心より感謝申し上げます。この文學部門の目録作成に当たっては遺漏なきを期したが、時間的かつ人的な制約によりなお誤植・遺漏などがあることを恐れる。お気づきの點は、擔當者までお知らせ頂きたい。なお、本目録には、申告があっても発行年月の期限外、収録基準に合致しないと判断した場合には、収録を控えさせて頂いた。何卒ご理解賜りたい。

青木 正兒	江南春 OD 版東洋文庫217	平凡社	大島 正二	支那古代の祭禮と歌謡 アジア學叢書100	大空社
淺野 裕一	古代中國の言語哲學	岩波書店	賈芝編／孫劍冰編／君島久子譯／赤羽末吉繪	白いりゅう黒いりゅう 中國のたのしいお話	岩波書店
荒井 健	シャルパンティエの夢	朋友書店	加島 祥造	加島祥造が詩でよむ 漢詩 陶淵明から袁枚まで	里文出版
石川梅次郎	漢詩入門 作り方・味わい方	松雲堂書店	川合 康三	中國のアルバ 詩學 汲古選書33	汲古書院
石川 忠久	NHKカルチャーアワー 漢詩への誘い 歴史と風土（長安の巻）	NHK出版	工藤 元男	中國古代文明の形成と展開 早稲田大學オンデマンド出版シリーズ	早稲田大學文學部
石川 忠久	NHKカルチャーアワー 漢詩への誘い 歴史と風土（金陵の巻）	NHK出版	興 膳 宏	古典中國からの眺め 研文選書87	研文出版
石川 忠久	朗讀で味わう漢詩に出して初めて知る心豊かな世界 プレリジエンスイソテリジエンスイ	青春出版社	駒田信二編 寺尾善雄編	中國故事物語 愛情の巻1 河出大活字文庫	河出書房
稲畑耕一郎	神と人の交響樂 中國 假面的世界 圖說中國文化百華006	農文協	駒田信二編 寺尾善雄編	中國故事物語 愛情の巻2 河出大活字文庫	河出書房
井波 律子	中國ミステリー探訪 千年の事件簿から	NHK出版	酒井忠夫監 伸・小川陽一編	中國日用類書集成 人1 萬用正宗不求	汲古書院
井波 律子	酒池肉林 中國の警澤三昧	講談社學術文庫	酒井忠夫監 伸・小川陽一編	中國日用類書集成 人2 萬用正宗不求	汲古書院

酒井忠夫監 編	中國日用類書集成	汲古書院	田中淡・外 村中・福田 美穂編	中國古代造園史料 集成 增補 録 壘山篇 (秦 漢 六朝 增補 訂) 京都大學人 文科學研究所研究 報告	中央公論美術出 版	松下 緑	漢詩七五譯に遊ぶ 「サヨナラ」ダケ ガ人生カ	集英社
酒井忠夫監 編	中國日用類書集成	汲古書院	田中 博美	中國禮僧列傳 禪 語を産んだ名問答	淡交社	宮崎 市定	科學 中國の試験 地獄 改版 中公 文庫 BIBLIO	中央公論新社
伸・小川陽 一編	中國日用類書集成	汲古書院	田中 博美	中國禮僧列傳 禪 語を産んだ名問答	淡交社	村松 伸	中華中毒 中國の 空間の解剖學 ち くま學藝文庫	筑摩書房
伸・小川陽 一編	中國日用類書集成	汲古書院	田中 博美	中國禮僧列傳 禪 語を産んだ名問答	淡交社	中野美代子	頭の漂流	岩波書店
坂出祥伸・ 梅川純代	「氣」の思想から 見る道教の房中術 いまに生きる古代 中國の性愛長壽法	五曜書房	中國詩文研 究會	漢文研究の手びき (四訂増補版)	中國詩文研究會	新田 大作	漢詩の作り方 新 裝版	明治書院
佐藤 三郎	中國人日本旅行記 東遊日記の研究	東方書店	土屋 英明	道教の房中術 古 代中國人の性愛祕 法	文春新書	星川清孝/ 白石眞子編	古文眞寶 前集 新書 漢文大系16	明治書院
白川 靜	桂東雜記1	平凡社	寺山 宏	和漢古典植物考	八坂書房	松原 朗	中國離別詩の成立	研文出版
劉 達臨/ 鈴木 博譯	中國性愛文化	青土社	富谷 至	木簡・竹簡の語る 中國古代 書記の 文化史	岩波書店	八木 章好	中國古典文學二十 講 概説と作品選 讀	白帝社
莊 魯迅	漢詩 珠玉の五十 首 その詩心に迫 る	大修館書店	二階堂善弘	中國妖怪傳 怪し き者たちの系譜	平凡社新書176	話梅子編譯	遊仙枕	アルファポリス /星雲社發賣
全國漢文教 育學會編	朗唱漢詩漢文よ みがえる日本語の ひびき 心に残る 名詩名句77	東洋館出版社	福井文雅編	東方學の新視點 五曜書房發行	明德出版	二、先 秦		
大東文化大 學東洋研究 所	藝文類聚(卷十三) 訓讀付索引	大東文化大學東 洋研究所	古原 宏伸	中國畫論の研究	中央公論美術出 版			
竹内 實	中國長江 歴史の 旅	朝日選書	堀 誠	流瀆の花 中國の 文學と生活 研文 選書90	研文出版	小南 一郎	楚辭とその注釋者 たち	朋友書店
暁白・曉珊 選編/多田 敏宏譯	中國人、「食」を 語る	近代文藝社	松浦 友久	中國詩文の言語學 對句・聲調・教學 松浦友久著作選1	研文出版	白川 靜	中國の古代 歌謠 O.D版中公 文庫	中央公論新社
			松枝 茂夫	中國の童話 玉川 學園こどもの本	玉川大學出版部	白川 靜	中國の古代文學1 神話から楚辭へ I O 中公文庫 BIBL	中央公論新社

白川 靜 中國の古代文學1  
神話から楚辭へ  
OD版中公文庫 中央公論新社

今場 正美 隱逸と文學 陶淵  
明と沈約を中心と  
して 朋友書店

大東文化大  
學東洋研究  
所 藝文類聚(卷十三)  
訓讀付索引 大東文化大學東  
洋研究所

白川 靜 中國の神話  
中公文庫BIBL  
IO 中央公論新社

内田泉之助  
編 尾形幸子  
文選(詩篇)  
新書漢文大系19 明治書院

高木 重俊 張說 玄宗とも  
に翔た文人宰相  
あじあブックス056 大修館書店

白川 靜 中國の神話  
OD版中公文庫 中央公論新社

佐藤 大志 六朝樂府文學史研  
究 溪水社

竹村 則行 楊貴妃文學史研究  
田中 和夫 毛詩正義研究 研文出版  
白帝社

白川 靜 孔子傳  
中央公論BIBL  
IO 中央公論新社

白川 靜 中國の古代文學2  
史記から陶淵明へ  
中公文庫BIBL  
IO 中央公論新社

中國中世詩  
詞研究會 唐詩ノート1 研文社

白川 靜 孔子傳  
OD版中公文庫 中央公論新社

白川 靜 中國の古代文學2  
史記から陶淵明へ  
OD版中公文庫 中央公論新社

中野 孝次 私の唐詩選 文春  
文庫 文藝春秋社

田中 和夫 毛詩正義研究  
白帝社

目加田誠  
長尾直茂編 世說新語  
新書漢文大系21 明治書院

張 彥遠著  
長廣 敏雄 譯注 歷代名畫記1・2  
311 OD版東洋文庫305・ 平凡社

中田 昭榮 詩經 新編 上  
愛と祝いの詩集 郁朋社

堀江 恭子 異郷に永眠る悲劇  
の美人 王昭君 白帝社

古川 末喜 初唐の文學思想と  
韻律論 知泉書館

松本 肇 春秋戰國の處世術  
中國古典に學ぶ  
「逆轉の寓話」講  
談社現代新書 講談社

森野 繁夫 謝康樂文集 白帝社

前野直彬編 唐代傳奇集1・2  
16 OD版東洋文庫2・ 平凡社

アン・ピレ  
ル／丸山和  
江譯 中國の神話 丸善

四、隋唐五代

森 亮譯 白居易詩鈔  
中國古詩鈔 OD・  
版東洋文庫52 平凡社

三、漢魏晉南北朝

吳志達／赤  
井益久譯 唐傳奇入門(復刻  
版)中國古典入  
門叢書9 日中出版

五、宋

岡本不二明 唐宋の小説と社會 汲古書院

中島千秋・  
高橋忠彦／  
今井佳子編 文選(賦篇) 新書  
漢文大系20 明治書院

市川 桃子 新編 李白の文  
書・頌の譯注考證 汲古書院  
岡本不二明 唐宋の小説と社會 汲古書院  
注 小林保治譯 唐物語 講談社學  
術文庫 講談社

岡本不二明 唐宋の小説と社會 汲古書院  
星川清孝／  
白石眞子編 古文眞寶 前集  
新書漢文大系16 明治書院  
東 英壽 歐陽脩古文研究 汲古書院

六、金・元・明

瞿佑／剪燈新話 O D版東洋文庫48 平凡社  
 飯塚容譯  
 井波律子譯 三國志漢義4・5・6・7 筑摩書房  
 余懷／板橋雜記・蘇州畫舫錄 O D版東洋文庫29 平凡社  
 西溪山人／馮夢龍『山歌』の通俗歌謠 勁草書房  
 大木康 中國四大奇書の世界『西遊記』『三國志演義』『水滸傳』『金瓶梅』を語る 懷德堂イブライリー5 和泉書院  
 懷德堂記念會編  
 小林徹行 明代女性の殉死と文學―薄少君の哭夫詩百首 汲古書院  
 笑笑生作 原文併載 金瓶梅詞話―淫の世界(第三卷) 太平書屋  
 坂戸みの編譯  
 瀧本弘之編 中國古典文學插畫 紅樓夢 遊子館  
 瀧本弘之編 中國古典文學插畫 集成四 水滸傳 遊子館  
 竹村則行 楊貴妃文學史研究 研文出版  
 中野美代子 西遊記の秘密 オと煉丹術のシンボルイズム 岩波現代文庫 岩波書店

學界展望(文學)(二〇〇三年一月〜十二月)

七、清

古田敬一主編 拍案驚奇譯注(第一冊)唐賽兒の亂 汲古書院  
 方蘭 エロスと貞節の靴 勉誠出版  
 丸山浩明 遊學叢書30 明清章回小説研究 汲古書院  
 村上知行譯 西遊記上・下 光文社  
 余懷・西溪山人著 岩板橋雜記・蘇州畫舫錄 O D版東洋文庫29 平凡社  
 梁啓超著 清代學術概論―中國のルネッサンス 平凡社  
 注 小野和子譯 O D版東洋文庫245  
 ブルーヴェ著 康熙帝傳 平凡社  
 後藤末雄譯 O D版東洋文庫155  
 佐藤一郎 中國文學の傳統と再生―清朝初期から文學革命まで 研文出版  
 佐藤一郎 中國文學の傳統と再生―清朝初期から文學革命まで 研文出版  
 王國維の生涯と學問 風間書店  
 竹村則行 楊貴妃文學史研究 研文出版  
 王獨清著 長安城中の少年―清末封建家庭に生まれて O D版東洋文庫57 平凡社  
 田中謙二譯  
 樽本照雄 清末小説叢考 清末小説研究會

八、近現代

樽本照雄編 官場現形記資料 清末小説研究會  
 陳忱著 水滸後傳1・2・3 O D版東洋文庫58・66・78 平凡社  
 鳥居久靖譯  
 中山忠英著 清俗紀聞1・2 O D版東洋文庫70 平凡社  
 孫伯醇編 蜀碧・嘉定屠城紀略 O D版東洋文庫36 平凡社  
 彭遵泗・朱子素・王秀楚著 松枝茂夫譯  
 丸山浩明 明清章回小説研究 汲古書院  
 藍鼎元著 鹿洲公案―清朝地方裁判官の記録 O D版東洋文庫92 平凡社  
 宮崎市定譯  
 百瀬弘譯注 西學東漸記―容闓自傳 O D版東洋文庫136 平凡社  
 劉德隆 清末小説過眼録 清末小説研究會  
 鄧曉芒／赤羽陽子・近藤直子・山口守譯 精神の歷程 中國文學の深層 柘植書房新社  
 秋吉久紀夫 現代中國少數民族詩集新・世界現代詩文庫1 土曜美術社出版販賣

高行健／飯塚容等譯	高行健戯曲集	晚成書房	陳丹燕／大場雅子譯	上海のデパート王の娘が體驗した日中戦争・中國革命・文革	光文社	胡定金	郁達夫研究	東方書店
莫言／井口 晃譯	赤い高粱 岩波現代文庫	岩波書店	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記1 少年康熙帝	徳間書店	佐藤 一郎	中國文學の傳統と再生 清朝初期から文學革命まで	研文出版
平 路／池上貞子譯	天の涯までもー小説・孫文と宋慶齡ー	風濤社	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記2 天地會の風雲兒	徳間書店	九丹／眞田潤譯	ドラゴン・ガール	アーティストハウス／角川書店
池澤實芳譯	綿積み	近代文藝社	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記3 鹿鼎記の邂逅	徳間書店	沙 柚	父の帽子	幻戲書房
周國平／京鹿譯／毛丹青監譯	ニューニューウ18カ月で娘を喪った哲學者の至上の愛	PHP研究所	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記4 二人の皇太后	徳間書店	謝 雅 梅	臺灣は今日も日本晴れ!	綜合法令出版
泉彪之助・藤野明監修	魯迅と藤野嚴九郎ー日中友好の絆ー百年前の出会い	福井縣芦原町教育委員會發行	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記5 鹿鼎記の武俠小説をめぐって	徳間書店	鈴木陽一編著	金庸は語る 中國武俠小説の魅力 クレット24	御茶の水書房
馬建／上田クミ譯	レッドダスト	集英社	金 庸／岡崎由美・小島瑞紀譯	鹿鼎記5 鹿鼎記の武俠小説をめぐって	徳間書店	瀬戸 宏編	民鳴社上演演目一覽	翠書房／朋友書店發賣
魚住悦子編譯・解説／下村作次郎	故郷に生きる カラット・アウーリ	草風館	神奈川大學人文學研究所編	歴史上文學の境界 (金庸)の武俠小説をめぐって	勁草書房	周而復／竹内實監修	長城萬里圖3 流と暗流上	晃洋書房
孫大川・土田滋・ワカノカ	臺灣原住民文學選2	草風館	周海嬰／岸田登美子・瀬川千秋・樋口裕子譯	わが父魯迅	集英社	周而復／竹内實監修	長城萬里圖2 江正義と勇氣の大海へ下	晃洋書房
中村ふじゑ編譯・解説／下村作次郎	永遠の大地 リカ	草風館	木村 益夫	中國朝鮮族文學の歴史と展開	緑蔭書房	立原えりか／チェン・カイコー、シユエ・シャオルー共同脚本	北京ヴァイオリン	愛育社
雷 石楡／内山加代譯	八年詩選集	潮流出版社	北京同志／九月譯	北京故事 藍宇	講談社			
宇野木洋・松浦恆雄編	中國二〇世紀文學を學ぶ人のために	世界思想社	高行 健	靈山	集英社			
			國分良成編著	中國文化大革命再論 慶應義塾大學地域研究センター叢書	慶應義塾大學出版會			

錢曉東、趙群、吳東、趙島由、華、桑島谷、美子、葛谷、登譯

新世紀の中國文學  
モダンからポスト  
モダンへ

白帝社

陳紹英

外來政權壓制下の  
生と死一九五〇  
年代臺灣白色テロ、  
一受難者の手記

秀英書房

李佩甫、永

羊の門

勉誠出版

陳丹燕、莫

上海メモラビリア

草思社

邦富、廣江

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(10卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(11卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(12卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(13卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(14卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(15卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(16卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(17卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(18卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(19卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(20卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(21卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(22卷)

綠蔭書房

中島利郎、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(23卷)

綠蔭書房

河原功、下

臺灣戯曲・脚本集  
第一期(24卷)

綠蔭書房

學界展望(文學)(二〇〇三年一月~十二月)

中島利郎、下  
村功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

焦桐、日本  
臺灣現代詩  
共同翻譯  
ミナリ編譯

黎明の縁(へり)

思潮社

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

陳義芝、日  
代詩、臺灣現  
代詩、共同翻  
譯、ミナリ編  
譯

服のなかに住んで  
いる女

思潮社

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

荻野 脩二  
ヤン・ナム著  
ク・ナム著  
早野依子譯

増補版 中國文學  
の改革開放現代

朋友書店

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

易智言、  
楊口裕子譯  
樋口裕子譯

藍色夏戀 BOOK  
PLUS

角川書店

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

森本まみ子  
馬燕、ジェ  
ル・アスキー  
山本知子譯

北京ごはんを文豪  
といかが食でた  
どる老舎小説

溪艸舎

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

戴煌、  
橫澤泰夫譯

私は勉強したい  
中國少女マー・イ  
エの日記

幻冬舎

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

神格化と特權に抗  
してある「右派」  
記者の半生

中國書店

中島利郎、下  
河原功、下  
修中島利郎、下  
編中島利郎、下

綠蔭書房

莫言、  
吉田富夫譯

白い犬とブランコ  
莫言自選短編集

NHK出版

松永 嘉孝

魯迅點描

熊本學園大學附  
屬海外事情研究  
所(研究叢書22)

莫言、  
井口 晃譯

赤い高梁  
岩波現代文庫

岩波書店

三四九



渡邊信一郎 中國古代の王權と天下秩序―日中比較史の視點から 校倉書房  
一海 知義 中國又戰詩の傳統―古代から「原爆行」まで (大修館書店) しにか14|6  
後藤 秋正 『草堂』(『杜甫研究叢刊』) 總目次 札幌國語研究 8

## 十二、書誌

中國詩文研究會 漢文研究の手びき (四訂増補版) 中國詩文研究會  
平石淑子編 蕭紅作品及び關係資料目錄 汲古書院  
山之内正彦 東京大學東洋文化研究所席夕風堂文化研究目錄 東京大學東洋文化研究所附屬東洋學情報センター  
緒方 康 中國文學における「虚」と「實」 アジア遊學 56  
高明 天瑜 中國傳統文化・思想とその近代化への革新 中國21  
馮 瑜 古典から二〇世紀へ 中國二〇世紀文學を學ぶ人のために(世界思想社)  
高柴 麻子 「夏の蟬」の復權 「地域」の視點から見た古小説の研究にむけて

## 論 文

### 一、總 記

白居易研究年報 4 龜山 朗 (白晝像)への途 滋賀大國文41  
書評：王毅『園林與中國文化』 4 金 文京 書評：老先生獨開新徑、女弟子各顯其能―定年記念論集の新機軸(『ああ哀しいかな』) 東方273  
九州中國學會草創期の研究者の動向 中國文學評論24  
變と變文 國文學解釋と鑑賞15|6  
荒見 泰史 國文學解釋と鑑賞15|6  
石川 忠久 「對談」青燈詩話 大修館書店  
①(9)しにか14|4  
④(14)しにか14|4  
中西 進 大正 後藤 秋正 書評：井波律子著『中國文學の愉しき世界』 (大修館書店) しにか14|4  
一海 知義 中國古典詩を讀む 環14

學界展望(文學)(二〇〇三年一月〜十二月)



野村 鮎子 シンポジウム「ジェンダーからみた中國の「家」と「女」について」  
女性史學13

濱田 晉一 歴代「詠諸葛亮詩」試論  
中國言語文化研究3（佛教大學）

福井 佳夫 哀祭・傳狀・碑誌・語録・連珠のジャンルについて  
『中國古代文體概論』より  
中京大學文學部紀要37―3・4

村山 吉廣 漢詩「スタルシ」―中國望郷詩の背景（大修館書店）  
しにか14―2

山口 謠司 〈集部〉機能についての一考察  
大東文化大學漢學會誌42

山寺 三知 中國古代音樂史學概論（1）  
國學院短期大學紀要21

楊 鑄 虚實相生―中國古代繪畫理論的重要貢獻―  
研究紀要66（日本大學）

吉澤誠一郎 歴史敘述としての自傳  
中國―社會と文化18

和田 英信 書評：文學研究のよろこび（中國讀書人の政治と文學）  
東方268

二、先 秦

一色 秀樹 孟子の齊東野語とその背景―舜の傳承をめぐる―  
國學院中國學會報49

植田 渥雄 孔子の言葉と「コミュニケーション」  
日中言語文化1（櫻美林大學紀要）

内山 知也 古代醫師の説話―黄帝を中心として―  
斯文111

内山 知也 「曾子曰、士不可與弘毅」章（論語、泰伯八）  
斯文111

江口 尙純 名もなき民衆の望郷―『詩經』から  
しにか14―2（大修館書店）

尾崎 保子 左傳における婦女觀（七）―結婚の意味―  
學苑75（昭和女子大學）

尾崎 保子 左傳における婦女觀（八）―「歸」ということ  
學苑76（昭和女子大學）

尾崎 保子 左傳における婦女觀（九）―娣の記録と滕制について  
學苑77（昭和女子大學）

久保由布子 『孝經』の成立時期の再検討  
中國研究集刊調號（32）（大阪大學中國哲學研究室編輯）

栗田 陽介 晁補之の楚辭三書について  
國學院中國學會報49

小池 一郎 郭店楚簡『天子』校注（上）  
言語文化5―3

澤田 雅弘 飲墨について  
大東文化大學漢學會誌42

鈴木 達明 語り得ぬものへのことば―『莊子』における言語問題と説へ意識について―  
中國文學報66

孫 久富 『書經』の「夔」と「古事記」の「孫女」の性質をめぐる―  
相愛國文16（相愛大學人文學部日本文化學科）

高戸 聰 蚩尤に於ける天地分離  
集刊東洋學90

館野 正美 〈道〉と神話―莊子の〈道〉における神話的表象―  
研究紀要66（日本大學）

孟 二冬／千葉 貴譚 中國における「ユーロピア」理想  
東京大學中國語中國文學研究室紀要6

鳥羽田重直 『楚辭』「九辯」小考―名稱と分章―  
和洋國文研究38

中島 敏夫 歴史と神話への視座―擬古派禹天神論の檢證からの再出發―（上）  
中國21

西口 智也 詩經研究文獻目録「邦文篇」1991（平成3年）―1999（平成11年）  
詩經研究28

西口 智也 書評：田中和夫著『毛詩正義研究』  
中國古典研究48

野田 雄史 孟子の中の「楚」  
中國文學論集32（九州大學中國文學會）

野村 和廣 『詩經』篇名攷  
二松17（二松大學舎大學學院紀要）

一海 知義 中國反戰詩の傳統―古代から―原爆行まで  
しにか14―6（大修館書店）

萩庭 勇	五十歩百歩について 大東文化大學漢學會誌42	池淵 質實	九條本『文選』校勘記(二二) 中國研究論集11(廣島中國學會)	大村 和人	深奥の宴―梁代『長安有狹邪行』に關する一考察― 東方學 106
福井 佳夫	哀祭・傳狀・碑誌・語録・連珠のジャンルについて― 『中國古代文體概論』より― 中京大學文學部紀要37―3・4	市川 清史	中國反戰詩の傳統― 古代から「原爆」まで― しにか14―6(大修館書店)	岡村 繁	「莊老告退、山水方滋」考― 淝水の戰の文化史的意義― 中國文學論集32(九州大學中國文學會)
堀 黎美	政治と宗教 福井工業大學研究紀要33	一海 知義	曹植詩に見られる「風」の表現について― 曹植の詩について― 命をかけた情熱の詩― かながわ高校國語の研究39	岡本不二明	唐代傳奇と樹木信仰― 槐の文化史― 岡山大學文學部紀要40
前川 正名	『楚辭』關係論文集― 目録― 日本篇―(稿) 西村天囚と藤野岩友― 日本楚辭學の一系譜― 懷德堂文庫の研究― 共同研究書―	上野 裕人	曹植の詩について― 命をかけた情熱の詩― 語文と教育17(鳴門教育大學國語教育學會)	寛 文生	書評：橋本草子『郭巨』説話の成立をめぐって― 漢代避諱に關する若干の問題について― 東洋文化研究所紀要144
前川 正名	懷德堂文庫の研究― 共同研究書―	上野 裕人	『宋書』樂志譯注稿(一) 未名21	影山 輝國	『三國志物語』の形成― 銅雀臺故事』を中心に― 中國研究論集11(廣島中國學會)
牧角 悦子	中國神話學の夜明け― 近代中國の學術と顧頡剛・聞一多の古代學― 神話と詩2(日本間一多學會)	大木 康	中國文學における「虛」と「實」 アジア遊學56	角谷 聰	『文選音決』の「三」字音考 中國古典文學研究刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター年報)
牧角 悦子	『論語』の中の鬼神― 呪術から儒術へ― 二松學舎大學論集46	大田 亨	「蒼生」語について― 虎關師練の「詩話」を中心に― 中國古典文學研究センター年報	狩野 充徳	書評：後漢・魏晉思想の核心を追求― 漢代の學術と文化― 東方268
翠川 信人	中國古代におけるカメキリに對するイメージについて 漢詩とスタルツ― しにか14―2(大修館書店)	大野 修作	六朝遺像について― 藥王山北朝碑石紹介― 研究紀要16(京都女子大學宗教・文化研究所)	神塚 淑子	自然境界文學(ネイチュアライティング)の隱者― 陶淵明 しにか14―3(大修館書店)
村山 吉廣	中國望郷詩の背景 しにか14―2(大修館書店)	大橋 由治	劉義慶傳(『宋書』卷五十一列傳十一宗室)譯注 大東文化大學漢學會誌42	加藤 國安	陶淵明(桃花源記)「外人」少考― 「外人」の解釋史の概要― 大東文化大學漢學會誌42
渡邊 晴夫	『古代微型小説』初論 12國學院雜詩104―	大平 幸代	靈妙なる長江― 郭璞「江賦」の表現と世界認識― 日本中國學會報55	門脇 廣文	

三、漢・魏・晉・南北朝

學界展望(文學)(二〇〇三年一月〜十二月)

門脇 廣文  
陶淵明へ桃花源  
記「外人」小考  
内山論文「以前」  
の解釋とその問題  
點について

佐伯雅宣・  
佐藤利行

劉孝綽詩譯注(2)  
中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學プロジェクト研  
究センター年報)

金子 真也  
『文選課虚』につ  
いて

三枝 秀子

龍谷紀要24-2

陶淵明の詩文にみ  
えるたのしみの表  
現について「和」  
をめぐって

大東文化大學漢  
學誌42

樂府を讀む  
會  
六朝樂府詩譯注  
(三)「巫山高」  
後半五首

三枝 秀子

中國研究論集11  
(廣島中國學會)

日本における陶淵  
明研究について

大東文化大學中  
國學論集20

末岡 實

中國古代女性の生  
きる知恵―劉向  
『列女傳』の世界・  
その一―

フェリス女學院  
大學文學部紀要  
38

金谷 武志  
詩と賦のあいだ

佐竹 保子

未名21

陸機「演連珠」の  
構成上の特質

六朝學術學會報  
4

先坊 幸子

六朝志怪に於ける  
狐狸

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

河内 利治  
(譯注)魏晉の風  
度―人間の主題―

佐竹 保子

國士館大學漢學  
紀要5

陸機「演連珠」五  
十首について―そ  
の多元性と抒情性―

日本中國學會報  
55

高西 成介

「地域」の視點か  
ら見た古小説の研  
究にむけて

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

吳 懷東  
論晉宋之際的政治  
轉型與文學革新

佐竹 保子

中唐文學會報10

陸機の「神仙の賦」  
をめぐって

集刊東洋學89

高西 成介

「桃花源記」を讀  
む

漢文教育28(廣  
島漢文教育學會)

小嶋明紀子  
「歸葬詩」に關す  
る覺書(一)―漢  
代から南北朝末期  
まで―

佐藤 大志

二松學舍大學人  
文論叢71

樂府文學と成立論  
の形成

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

高西 成介

「桃花源記」を讀  
む

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

今場 正美  
東晉侯治下にお  
ける沈約と阮籍「詠  
懷詩」注について

佐藤利行・  
佐伯雅宣

學林36・37

劉考綽の樂府詩  
志怪書誕生の素地  
としての「風俗通  
義」―「風俗通義」  
における災異と怪  
異

中國中世文學研  
究43

鷹橋 明久

阮咸傳(『晉書』  
卷四十九) 譯注

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

佐伯 雅宣  
漢子情報データベ  
スの制作とその課  
題―「全梁詩」檢  
索について―

佐野 誠子

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

中國―社會と文  
化18

橋 英範

液體の月光―中國  
古典詩における月  
光表現管見―

中國中世文學研  
究44

澤田 雅弘  
飲墨について

橋 英範

大東文化大學漢  
學誌42

六朝詩に見られる  
「社」について

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

橋 英範

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

中國古典文學研  
究創刊號(廣島  
大學中國古典文  
學プロジェクト研  
究センター年報)

田部井文雄	郷愁に誘う詩人―陶淵明が歸った世界	しにか14―2 (大修館書店)	西口 智也	書評：田中和夫著『毛詩正義研究』	中國古典研究 48	福井 佳夫	漢末魏初の遊戯文學―遊戯文學論(一)―	中京大學文學部 紀要 38―1
田宮 昌子	悲憤慷慨の系譜―王逸注「離騷」にみる漢代屈原像―	中國 21	VICTOR H. MAIR & TSU-LIN MEI・ 長谷部 剛譯	中國近體詩の韻律論におけるサンスクリット起源(一) 人文	鹿兒島縣立短期大學人文學會論集 27	福井 佳夫	蔡邕の「青衣賦」について―遊戯文學論(五)―	中京國文學 22
孟 一冬 / 千葉 貴譯	中國における「ユートピア」理想	東京大學中國語中國文學研究室 紀要 6	VICTOR H. MAIR & TSU-LIN MEI・ 長谷部 剛譯	中國近體詩の韻律論におけるサンスクリット起源(二) クリット起源(二)	鹿兒島縣立短期大學紀要 人文・社會科學篇 54	朴 美子	「歸去來」類型とその獨自性の確認―熊本大學―	文學部論叢 79
塚本 宏	『世説新語』に於ける阮籍の存在について	和洋國文研究 38	長谷川 滋成	東晉王朝百年の推移(上)	プロブレマティク 4	増子 和男	六朝志怪「宋定伯」小考―その用語を中心として―	中國文學研究 29
堂 蘭 淑子	文學言語としての「看」と六朝詩歌―意味と變遷と唐詩への流れ―	中國文學報 66	長谷川 滋成	遊覽詩から山水詩へ	尾道大學藝術文化學紀要 2	源川 彦峰	畫像石―孝堂山畫像石を中心に―	二松學舎大學論集 46
戸高留美子	「三都賦」における「兩都賦」―「二京賦」の踏襲と發展について	35 學藝國語國文學	畑村 學	『文選』史傳作家の研究―司馬遷と班固の評價の變遷を中心に―	中國古典文學研究刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター年報)	村山 吉廣	漢詩「ケスタルジ」―中國望郷詩の背景―	しにか14―2 (大修館書店)
富永 一登	資料集『文選』李善注引曹植詩文	中國古典文學研究刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター年報)	林 香奈	白骨 平原を蔽う―王粲「七哀詩」―	しにか14―6 (大修館書店)	森野 繁夫	王羲之と「屍喪不反」	中國中世文學研究 43
中尾健一郎	孟郊の陶淵明受容について	中唐文學會報 10	原田 直枝	故國を思う詩人―庾信の生涯と作品―	しにか14―2 (大修館書店)	森野 繁夫	顏延之の「庭詠」と編激の性	中國古典文學研究刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター年報)
中尾健一郎	六朝初唐の詠松詩について―王勃と劉希夷における「涸底の松」の源流をめぐって―	九州中國學會報 41	平田 昌司	「たましい」はなぜ病むのか―「淮南子」以後	論集「古典の世」の再構築―研究結果報告集V―	森野 繁夫	謝朓詩の自然表現	安田女子大大學院紀要 8
黃世中 / 木 愛譯	中國山水詩の誕生と揚州の山水	中國研究論集 10 (廣島中國學會)	福井 佳夫	哀祭・傳狀・碑誌・語録・連珠のジャンルについて―『中國古代文體概論』より―	中京大學文學部 紀要 37―3・4	森野 繁夫	東晉末における謝靈運	中國中世文學研究 44

森野 繁夫 庾信の詩(十一) (廣島中國學會) 中國研究論集11

森野 繁夫 六朝の文人たち― 梁・吳均― 中國學論集34

柳川 順子 魏朝における「相和」―清商三調―の違ひについて

柳川 順子 「古詩」源流初探― 第一古詩群の成立― 中國中世文學研究43

柳川 順子 『宋書』樂志と『樂府詩集』―その「相和」―清商三調」の分類を巡つて― 廣島女子大學國際文化學部紀要11

山口 爲廣 野に死して諒に葬られず―漢代樂府「戰城南」― (大修館書店) しにか14―6

楊 明 二十世紀の中國大陸における樂府研究の狀況 未名21

吉原 英夫 項羽本紀を読む 札幌國語教育研究7

吉原 英夫 『史記會注考證・留侯世家』を読む 札幌國語教育研究6

渡邊 晴夫 「古代微型小説」初論 國學院雜誌104―12

渡邊 義浩 死して後止む―諸葛亮の漢代的精神― 大東文化大學漢學會誌42

渡邊 登紀 田園と時間―陶淵明「歸去來兮辭」論― 中國文學報66

四、隋・唐・五代

赤井 益久 書評：王毅『園林與中國文化』 白居易研究年報4

芦立 一郎 詩式と復古 山形大學紀要(人文科學)15―2

安部 兼也 李白「月下獨酌」(其一)の讀み方 東洋大學中國哲學文學科紀要11

荒見 泰史 變と變文 國文學解釋と鑑賞15―6

安藤 信廣 乃ち知る―兵なる者は是れ凶器―李白「戰城南」 札幌國語教育研究7

石川 忠久 「長江三峽」漢詩紀行 (大修館書店) しにか14―10

石村 貴博 「劉子集略説」譯注 中唐文學會報10

市川 清史 郎士元と謝靈運 學苑(昭和女子大學)75

一海 知義 中國反戰詩の傳統―古代から「原爆行」まで― (大修館書店) しにか14―6

植木 久行 杭州―西湖をめぐる詩心の交響 (大修館書店) しにか14―10

植木 久行 『杜牧詩選』譯注 例釋―凡例・譯注・傳本― 中國詩文論叢22

上原 作和 身心の俱に靜好なるを得むと欲せば―『聽幽蘭』 白居易研究年報4

薄井 俊二 漢唐河川湖誌輯逸(稿) 埼玉大學紀要(人文・社會科學)52―1

内田 誠一 靜嘉堂本『王右丞文集』刊刻年代考 日本中國學會報55

内山 精也 李白の後身・郭祥正と「和詩」 中國文學研究29

埋田 重夫 白居易における洛陽履道里邸の意義 中國文學研究29

遠道 寛一 長恨歌の研究(九)―「歲時廣記」に見える「長恨歌傳」(七)― 江戸川短期大學紀要18

遠道 星希 李賀と李商隱を隔てるもの―神女のなごり、神女廟に寄せる詩人の想い― 東京大學中國語中國文學研究室紀要6

大川 忠三 白居易の憂鬱 大東文化大學漢學會誌42

大木 康 「中國文學における「虚」と「實」」 アジア遊學56

大澤 正昭 唐宋變革期における家族相繼と構成―小説史料による分析― 唐代史研究6

太田 亨 日本禪林における中國の杜詩注釋受容 日本中國學會報55

大橋 賢一 中國古典詩における書寢について―唐代を中心― 筑波中國文化論叢22

孟一冬／ 大山 潔譯	『登科記考』と『登科記考補正』について	中國―社會と文化18(中國社會文學會)	川合 康三	兒は爺嬢に別れ夫は妻に別る―白居易「新豐折臂の翁」	しにか14―6(大修館書店)	齋藤 聰	王維詩における「白雲」について	國士館大學漢學紀要5
岡田 充博	「板橋三娘子」考(五)	東洋古典學研究16(廣島大學)	川口 喜治	杜甫「送高三十五書記」詩の制作をめぐって―高適研究の一端として―	山口縣立大學國際文化學部紀要9	齋藤 茂	孟郊と淡然―「淡雲を送る」二首」をめぐって―	中唐文學會報10
岡村眞壽美	『詠史詩』陳蓋注の特徵	中國文學論集32(九州大學中國文學會)	陳尙君／韓艷玲譯	『二十四詩品』の眞偽をめぐる論争と唐代(六一八―九〇七)の文獻考證の方法	中國學志壘號(大阪市立大學中國學會)	坂口 三樹	古來 白骨 人の收むる無し―杜甫「兵車行」	しにか14―6(大修館書店)
岡本不二明	演劇的側面からみた唐代傳奇―柳毅傳―	岡山大學文學部紀要39	北野 元美	柳宗元植物詩論―移植をめぐって―	中國學志壘號(大阪市立大學中國學會)	雜喉 潤	天を仰ぎ面を掩い哭するごとく―一聲「韋莊「秦婦吟」	しにか14―6(大修館書店)
岡本不二明	唐代傳奇と樹木信仰―槐の文化史―	岡山大學文學部紀要40	高 倩藝	王維詩における聲母の効果―牙音―	中唐文學會報10	佐藤 浩一	中華書局本『杜詩詳注』について―その點校者と編纂背景―および『九家集註杜詩』との關連―	中國詩文論叢22
寛 久美子	李白「月下獨酌四首」考	奈良大學紀要	高 冬柏	傳奇と佳人―唐代小説における女性像について―	福井大學 教育地域科學部紀要(國語學・國文學・中國學編)54	澤田 雅弘	飲墨について	大東文化大學漢學會誌42
寛 文生	空海と馬總の「離合詩」	中國文藝研究會會報264	黃 秋正	『全唐詩』中の「臨刑・臨化」詩	中國文化61	澤崎 久和	ふたたび仙遊寺を訪ねて	福井大學國語國文學42
加固理一郎	李商隱の「無題」詩連作について	中國文化61	後藤 秋正	李節「過朱江甯子美」詩について―杜甫の墓―	北海道教育大學紀要53―2	靜永 健	「衛公宅靜閉東院」考―白居易新樂府牡丹芳私注―	中唐文學會報10
加固理一郎	李商隱「樂遊原」五絶の「夕陽」と「黃昏」について	横濱市立大學論叢(人文科學系)54―1・2・3合併號	後藤 秋正	李節「過朱江甯子美」詩について―杜甫の墓―	北海道教育大學紀要53―2	靜永 健	「衛公宅靜閉東院」考―白居易新樂府牡丹芳私注―	中唐文學會報10
加藤 敏	元結における元子の意味	千葉大學教育學部研究紀要51	後藤 秋正	李節「過朱江甯子美」詩について―杜甫の墓―	北海道教育大學紀要53―2	靜永 健	「衛公宅靜閉東院」考―白居易新樂府牡丹芳私注―	中唐文學會報10
門脇 廣文	上海辭書出版社《唐詩鑑賞辭典》譯注稿―李商隱篇(10)	大東文化大學紀要41	後藤 秋正	李節「過朱江甯子美」詩について―杜甫の墓―	北海道教育大學紀要53―2	靜永 健	「衛公宅靜閉東院」考―白居易新樂府牡丹芳私注―	中唐文學會報10
鎌田 出	長恨歌「芙蓉如面柳如眉」	中國文學研究29	紺野 達也	「輞川集」における王維の風雲意識―「遊止」の典故を手がかりに―	中國文學研究29	靜永 健	東京國立博物館藏古筆殘卷「白氏文集卷六十六」の本文について	日本中國學會報55

下定	雅弘	白詩は杜詩の口語をどのようにとり入れたか？―春と老いの表現をめぐる―	4 (勉誠出版)	高芝	麻子	モチーフの系譜、作者と作品―川合康三先生の研究をめぐる― 夏の蟬の復権	東京大學中國語中國文學研究室紀要6	孟冬／千葉貴譚	中國における「ユーロピア」理想	東京大學中國語中國文學研究室紀要6	
下定	雅弘	日本における白居易の研究―二〇〇一年―	4 (勉誠出版)	高西	成介	「地域」の視點から見た古小説の研究にむけて	中國古典文學研究創刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター年報)	張	娜麗	西域發見の佚文資料(三)―大谷經斷片について―	學苑759
謝	思維	白氏文集卷第六「遊悟眞詩」(二百三十韻)校注	4 (勉誠出版)	高野由紀夫	塞詩の名作より―邊境の砦にて―	武漢―黃鶴樓周邊を流れるゆったりとした時間	しにか14―2 (大修館書店)	陳	尚君	石刻所見玄宗朝的政治與文學	中國文學論集32 (九州大學中國文學會)
詹	滿江	李商隱と女道士	杏林大學外國語學部紀要15	高野由紀夫	新羅・崔致遠と晩唐詩に見られる「社」について	液體の月光―中國古典詩における月光表現管見―	中國中世文學研究44	土谷	彰男	『唐五代文學編年史・初盛唐卷』人名索引	中國文學會報10 (中唐文學會)
曹	述變	『冥報記』の應報について―前半―	篇3	竹村	則行	唐詩における「社」について	中國研究論集10 (廣島中國學會)	戸崎	哲彦	『道教與唐代文學』書評：孫昌武著	東方宗教101
莊	魯迅	盛都―錦官城外の武侯祠、浣溪畔の杜甫草堂	しにか14―10 (大修館書店)	橋	英範	唐詩に見られる「社」について	中國研究論集10 (廣島中國學會)	戸崎	哲彦	李陽冰事跡考(上)―唐代文人・李陽冰とその周邊―	島大言語文化15 (島根大學法文學部紀要言語文化學科編)
太平廣記研	會	『太平廣記』譯注(二)―卷三百五十七「夜叉」(一)―	中國研究論集11 (廣島中國學會)	橋	英範	唐詩に見られる「社」について	中國研究論集10 (廣島中國學會)	豊福健	二譯	元白の「初識」の年をめぐる―陳才智氏の「元稹白居易」初年再辦―に答える―	白居易研究年報4 (勉誠出版)
高木	重俊	遅れてきた隱者―王績	しにか14―3 (大修館書店)	谷川	道雄	唐宋變革雜考	東方264	中	純子	白居易の音へのこだわり―白詩にみる音の世界―	白居易研究年報4 (勉誠出版)
高木	重俊	岳陽―洞庭湖と岳陽樓	しにか14―10 (大修館書店)	谷口眞由美	杜甫「乾元元年華州試進士策問五首」譯注(初稿)	西域―邊塞詩の三つの謎	しにか14―10	中尾	一成	陳子昂(一)―垂拱二年出征考(二)―	千里山文學論集69
高木	重俊	宮廷詩人としての張説	人文論究72	寺尾	剛	文學言語としての「看」と六朝詩歌―意味と變遷と唐詩への流れ―	中國文學報66	中尾	一成	陳子昂(三)―垂拱二年出征考(三)―	千里山文學論集70

中尾健一郎	孟郊の陶淵明受容について	中唐文學會報10	福本 雅一	并州是故郷	國學院大學大學院紀要34	丸山 茂	白氏交遊録「元稹・劉禹錫」(上)	研究紀要65(日本大學)
中尾健一郎	六朝初唐の詠松詩について―王勃と劉希夷における「涸底の松」の源流をめぐって―	九州中國學會報41	藤井良雄・陳翀共著	俞平伯『長恨歌』と『長恨歌傳』とが傳える疑義―譯注	福岡教育大學紀要52―1	水谷 誠	白居易「琵琶行」における上・去通押について	中國文學研究29
中木 愛	白居易の「月」の詩	中國中世文學研究43	藤原 克己	書評：太田次男『舊抄本を中心とする白氏文集本文の研究』	白居易研究年報4	道坂 昭廣	王楊盧駱の並稱について	京都大學總合人間學部紀要10
中小路駿逸	王維が阿倍仲麻呂に贈った詩にあらわれたる「九州」「扶桑」および「孤島」の意味について	追手門大學文學部紀要39	増尾伸一郎	長安の道教的空間を案内する(二)神仙幻想―道教的の生活―	アジア遊學50(勉誠出版)	村山 吉廣	漢詩とノスタルジ―中國望郷詩の背景	しにか14―2
西口 智也	書評：田中和夫著『毛詩正義研究』	中國古典研究48	増子 和男	唐代傳奇「杜子春傳」に見える道教的用語再考―(中)「白生三丸」考―	日本文學研究38	許山 秀樹	『校注唐詩解釋辭典』語釋語句索引	中國詩文論叢22
長谷部 剛	杜甫の「新題樂府」について	中國詩文論叢22	増子 和男	唐代傳奇『無雙傳』に關する一考察―假死藥を中心として(中)―	中國詩文論叢22	森瀬壽三・後藤裕也・重信あゆみ・高橋秀治	王維『輞川集』淺析	中國文學會紀要24尾崎實教授追悼號(關西大學中國文學會)
長谷部 剛	杜甫「江南逢李龜年」の唐代における流傳について	中國文學研究26	松尾 幸忠	唐代の類書における詩跡的觀點について	中國文學研究29	矢嶋美都子	高級官僚の望郷―王維の生涯と望郷詩―	しにか14―2(大修館書店)
波多野太郎	前第二十八期「十年一覺揚州夢に就いて」	中國文學研究29	松崎 治之	柳宗元小論―貶地の永州・柳州での詩をめぐって―	筑紫女學園短期大學紀要38	山口 直樹	江南 詩跡の街角①⑨	しにか14―4(大修館書店)
畑村 學	韓愈の史才と『順宗實錄』	中國中世文學研究44	松原 朗	杜甫夔州詩考序論―尙書郎就任を巡って―	中國文學研究29	山口 直樹	黃河―鶴鶴樓から見下ろす壯大な眺め	しにか14―10(大修館書店)
速水 愛子	温庭筠の律詩における對句について	筑波中國文化論叢22	松原 朗	杜甫の望郷意識―蜀中前期―	中國詩文論叢22	湯淺麻江譯	進んでは要路に趨かず、退いては深山に入らず―白居易の「中隱」の處世態度が後世の士人達に與えた影響について―	白居易研究年報4(勉誠出版)
福井 佳夫	哀祭・傳狀・碑誌・語録・連珠のジャンルについて―『中國古代文體概論』より―	中京大學文學部紀要37―3・4	松原 朗	漂泊の旅先から―杜甫の望郷詩―	しにか14―2(大修館書店)			
福本 雅一	燕子樓と張尙書	中國詩文論叢22						



吉崎 一衛	廬山―霧たちこめる南畫のとき美 書評：逸話を軸として説き盡くす唐詩人の詩心 〔唐詩物語〕	しにか14―10 (大修館書店)	池田 智幸	賀鑄詞における樂府文學の影響― 「寓聲詞牌」小考 宋代「六州歌頭」考(下)	學林 36・37	佐野 恆男	司馬光における「古文孝經指解」の位置	新しい漢字漢文教育37
芳村 弘道	白居易と李商隱 〔唐詩物語〕	學林 36・37	池田 智幸	中國反戰詩の傳統―古代から「原爆行」まで 孟子の齊東野語とその背景―舜の傳承をめぐって― 書評：蘇東坡愛讀者に戰後最大級の福音(詩人と造物)	學林 38 しにか14―6	澤田 雅弘	飲墨について 「蘇洵蘇軾詩檢索」について	大東文化大學漢學會誌42
李 浩	唐代杜氏在長安的居所	中國文學會報10	一色 秀樹	書評：蘇東坡愛讀者に戰後最大級の福音(詩人と造物)	中國學院中國學會報49	末葭 敏久	楊億「武夷新集」所收の詩について―制作時期と作品の性格―	中國古典文學研究創刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト年報)
劉禹錫散文研究會	劉禹錫散文譯注 第八回劉禹錫讀書會報告	中國文學會報10 中唐文學會報10	內山 精也	中國文學における「虚」と「實」 迷樓記―中國幻想建築コレクション(3)―	東方 267	高田 和彦	海南島・廣東省の蘇東坡遺跡 唐宋變革雜考	學林 36・37
渡部 英喜	西安―詩人たちの心のふるさと 張繼「楓橋夜泊」詩小考	しにか14―10 (大修館書店)	大木 康	中國文學における「虚」と「實」 迷樓記―中國幻想建築コレクション(3)―	アジア遊學 56	高畑 常信	蘇東坡遺跡 唐宋變革雜考	香川大學國文研究28
渡部 英喜	東北の漢詩(六)― 「夢母」詩について	東北文學の世界11 (盛岡大學文學科)	大平 桂一	薛紹彭と米芾―評價と浮沈の分岐點をめぐって―	颯風 37	谷川 道雄	「西湖三塔記」の構造	東方 264
渡部 英樹	『輞川集』解釋考(三)―王維「漆園」詩の解釋をめぐって―	日本文學會誌15	大森 信徳	晁補之の楚辭三書について	中國文學研究 29	谷口 義介	嚴羽と戴復古の交遊及び論評をめぐって	學林 36・37
渡部 英樹	柳宗元「江雪」詩小考―その解釋をめぐって―	新しい漢字漢文教育37	栗田 陽介	陳暘「樂書」研究― 於庭一章を中心に― (新瀉大學人文學部)	中國學院中國學會報49	張 健	成句：桂林山水甲天下の出自と典故について―王正功の詩と泥成大・柳宗元の評論―	學林 36・37
渡部れい子	李白飲酒詩の一つの源流―樂府における飲酒を中心に―	中國文學研究 29	兒玉 憲明	陳暘「樂書」研究― 於庭一章を中心に― (新瀉大學人文學部)	中國學院中國學會報49	張 健	成句：桂林山水甲天下の出自と典故について―王正功の詩と泥成大・柳宗元の評論―	學林 36・37
			小 林 義廣	書評：歐陽脩における古文と古文復興運動をめぐぐる新試み(歐陽脩古文研究)	東方 273	張 健	成句：桂林山水甲天下の出自と典故について―王正功の詩と泥成大・柳宗元の評論―	學林 36・37
			近藤 正則	司馬光非孟說二十ヶ條	國學院中國學會報49	野村 鮎子	蘇軾《保母楊氏墓誌銘》之謎	宋代文化研究12

五、宋

野村 鮎子	蘇轍の生母に關する一考察―蘇軾『保母楊氏墓誌銘』と王獻之『保母碑志』をめぐって	橄欖 11	和田 英信	蘇軾の題畫詩(一)	22	お茶の水女子大中國文學會報	角谷 聰	『三國志物語』の形成―銅雀臺故事を中心に	中國研究論集11(廣島中國學會)
萩原 正樹	『欽定詞譜』の『花草粹編』引用について	學林 36・37	荒木 猛	『金瓶梅』の創作方法―その娯樂性と政治性について	3	中國言語文化研究	勝山 稔	三言序文に込められた白話小説肯定論	香椎瀉 49
東 英壽	虚詞より見た歐陽脩古文の特色	鹿兒島大學法文學部紀要人文學科論集 57	和泉ひとみ	江南の知識人と復古派―その差異の所在―(下)	11	大阪産業大學人文科學編	河内 利治	黃道周注斷『廣名將傳』考	中國文化 61
福井 佳夫	哀祭・傳狀・碑誌・語録に於いて―『中國古代文體概論』より	紀要 37・3・4	大木 康	官廬因縁―方拱乾と冒襄―	55	日本中國學會報	河内 利治	倪元璐年譜	中國文化 61
藤田 伸也	南宋畫院の詩書畫―三絶の視點から	人文論叢 20(三重大學人文學部文科學科研究紀要)	大木 康	中國文學における「虚」と「實」	56	アジア遊學(勉誠出版)	川島 優子	『金瓶梅』罵詈雑言―吳月娘の罵詈雑言について	中國古典小説研究 8
藤原 祐子	柳永詞論―その物語性と表現	中國研究集刊 34	大木 康	明清兩代における鈔本	35	明代史研究會創立三十五周年記念論集	河野 眞人	『隋煬帝艷史』と馮夢龍『明末江南社會の「艷情」』に關して	九州中國學會報 41
三野 豊浩	『温公續詩話』譯注稿	言語と文化(愛知大學語學教育研究室) 9	大塚 秀高	通天河はどこに通じていたのか―『西遊記』成立史の二齣―	2	埼玉大學紀要教養學部 38	小塚 由博	『板橋雜記』成立小考―晩年の余懷の交遊關係を中心―	日本中國學會報 55
三野 豊浩	講演記録 陸游と范成大の交流	讀游會十周年記念公開講演會記録	大塚 秀高	六續研究前後―『封神演義』と『前漢書平話』をめぐって	8	中國古典小説研究	小松 謙	『金瓶梅』成立と流布の背景	和漢語文研究刊號(京都府立大學中國文學會)
森 博行	司馬光・邵雍交遊録(前)	33	大塚 秀高	肖像畫の中の遺言―『勝大尹鬼斷家私』をめぐって	42	大東文化大學漢學會誌	小松 謙	『四天王剽盜異録』に於ける『水滸傳』の影響	語文 115(日本大學文學會)
湯淺 陽子	王安石の詩における唐詩の受容について	人文論叢 20(三重大學人文學部文科學科研究紀要)	小川 陽一	『勝大尹鬼斷家私』をめぐって	42	大東文化大學漢學會誌	佐々木 猛	書評: 花登正宏『古今韻會舉要研究』	集刊東洋學 90

六、金・元・明

笹倉 一廣 『金瓶梅詞話』の金錢表現についての一考察―銀兩表  
現と合理性を求め  
ての書き換え

二階堂善弘 『八仙東遊記』に  
おける「過海」故  
事の變容

山下 一夫 『封神演義』の戲  
曲化と民間信仰へ  
の影響

澤田 雅弘 飲墨について

野村 鮎子 歸有光「先妣事略」  
の系譜―母を語る  
古文體の生成と發  
展―

遊佐 徹 ふたりの「趙公明」  
と二本の「黄河」―  
『封神演義』研究  
の4―

柴田 清繼 『警世通言』卷十  
五「金令史美碑酬  
秀童」譯注

表野 和江 『續文章規範』の  
選者とその改編

遊佐 徹 『封神演義』と  
『五瘟神』信仰―  
『封神演義』研究  
の3―

鈴木 滿 『輟耕錄』から落  
語まで

福井 佳夫 哀祭・傳狀・碑誌・  
語録・連珠のジャ  
ンルについて―  
『中國古代文體概  
論』より―

鷺野 正明 徐謂の古文辭批判  
と「比喩法」

高井たかね 明代後期の宴席に  
おける食卓の使用  
様式―「列卓」・  
「團坐」を中心と  
して―

福本雅一監  
修・尤侗研  
究會 尤侗『擬明史樂府』  
譯注(二)

鷺野 正明 徐謂の古文辭批判  
をめぐって

達 富睦 用字の違いから見  
る『水滸傳』の成  
立

藤原 祐子 柳永詞論―その物  
語性と表現

輪田 直子 『何必西廂』から  
『梅花夢』へ―彈  
詞成書と夢の系譜―

中鉢 雅量 英雄たちの榮光と  
悲慘―水滸傳の世  
界―

宮 紀子 ひっくりかえった  
葡萄棚の謎

七、清

中川 論 黃正刊本『三國志  
傳』再考

宮 紀子 モンゴルが遺した  
「翻譯」言語―舊  
本「老乞大」の發  
見によせて―(上)

會谷 佳光 『秘書省續編到四  
庫圖書』の成書と  
改定

中川 論 『三國志平話』と  
『三分事略』

宮 紀子 燕樂二十八調再考

淺原 達郎 書評：『舊街道を行  
く中國近代小説史  
』(中國近代通俗  
文學史)

中里見 敬 書目を利用した清  
平山堂刊行の小説  
に關する研究のた  
めに：劉改之の故  
書目、および『彙刻  
書目』諸本の異同

村越貴代美 お茶の水女子大  
學中國文學會報

市瀬 信子 盧見曾の文學活動

村田 和弘 明代冥婚譚「王玉  
英」の物語―その  
系譜と背景につい  
て―

北陸大學紀要26

上田 望 雲南關索戲とその  
周邊

中國古典小説研  
究8

中國詩文論叢22

中國中世文學研  
究44

武藏大學人文學  
部紀要34―3

中京大學文學部  
紀要37―3・4

國士館大學漢學  
紀要5

京都大學總合人  
間學部紀要10

中國研究集刊陽  
號(34)

中國文化61

中國四大奇書の  
世界(懷德堂記  
念會編)

人文50

大谷大學研究年  
報56

新大國語29

東方學106

東方269

新潟大學人間科  
學部紀要6―1

大陸大學紀要26

金澤大學中國語  
學中國文學教室  
紀要6

上野 隆三	阿英の「晚清小説」と『三俠五義』	學林 36・37	小川 恆男	家族の物語―黃遵憲の家族を描いた詩―	中國中世文學研究 44	北澤 實・齋藤 聰	帶經堂詩話注釋(一)	國士館大學漢學紀要 5
植松 宏之	紅樓夢小論―侍女の人間關係を中心―	人文論叢 70 (二松學舎大學)	小川 恆男	黃遵憲詩の「饒舌」について	日本中國學會報 55	後藤 裕也	「斬貂蟬」のものがたり―清代の説唱文學を中心―	中國文學會紀要 24 尾崎實教授追悼號(關西大學中國文學會)
王 毓雯	蔣士銓の戯曲における妻妃像	中國文學論集 32 (九州大學中國文學會)	小川 恆男	黃遵憲詩の物語性について	新しい漢字漢文教育 37	佐藤 一好	『點石齋畫報』「火鼠焚居」について―事件の教訓性と「イソップ寓話」との類似性―	學大國文 46
王 永健	『長正殿』 訥評	中國文學論集 32 (九州大學中國文學會)	小川 恆男	『人境廬詩草』中の「新名詞」	研究センター年報	佐藤 正光	『唐詩三百首』序跋文譯注 I―章變注疏系統―	東京學藝大學紀要 第二部人文科學 54
王 標	湖樓詩會考―袁枚晩年の文化的パフォーマンス―	人文論叢 32 (大阪市立大學大學院)	孟 冬 / 大山 潔譯	『登科記考』と『登科記考補正』について	中國―社會と文化 18 (中國社會文化學會)	澤田 雅弘	焦循「里堂遺聽錄」所録の南北書景派論・北碑南帖論について	書學書道史研究 13
王 標	隨園を訪ねてきた人々	中國學志 蠱號 (大阪市立大學中國學會)	岡田 充博	『聊齋志異』二三生本事小考	福濱國大國語研究 21	澤田 雅弘	飲墨について	大東文化大學漢學會誌 42
大木 康	明清兩代における鈔本	明代史研究會創立三十五周年記念論集	甲斐勝二・東 英壽	『清代文學批評史・緒論』譯注(下)	福濱國大國語研究 21	澤田 雅弘	中國名詞選訂補其十一	武庫川國文 61
大木 康	宣爐因緣―方拱乾と冒襄―	日本中國學會報 55	寛 久美子	黃遵憲「日本雜事詩」譯注稿(九)	未名 21	柴田 清繼	中國名詞選訂補其十二	武庫川國文 62
大木 康	中國文學における「虚」と「實」	アジア遊學 56	加藤 聰・小林 春代・高橋 文治・谷口 高志・富永 鐵平・西尾 祐子・藤原 祐子・森下 久美子・共著	成化本「白兔記」譯注稿(一)	中國研究集刊調 32	柴田 清繼	藍鼎元『女學』の研究(4)	東洋古典學研究 15
大島 吉郎	動詞重疊型に関する通時的研究(五)―『醉世因緣傳』を中心に―	大東文化大學紀要 41	川島 眞	書評: 黃遵憲の「名刺入れ」を再現する―「黃學」の確立に向けてのインフラ整備(「黃遵憲師友記」)	東方 273	下見 隆雄	藍鼎元『女學』の研究(5)	東洋古典學研究 16
大平 桂一	中國幻想建築コレクション(2)「慶典」―『簪曝雜記』より―	大阪女子大學國際文化専攻紀要 4	岡田 充博	『聊齋志異』二三生本事小考	濱國立大(横濱國立大學)	下見 隆雄	鄭板橋の書畫・篆刻	東京學藝大學紀要 人文科學 54
岡田 充博	『聊齋志異』二三生本事小考	國語研究 21 (濱國立大)	川島 眞	書評: 黃遵憲の「名刺入れ」を再現する―「黃學」の確立に向けてのインフラ整備(「黃遵憲師友記」)	東方 273	竹村 則行	『長生殿』譯注	中國文學論集 32

學界展望(文學) (二〇〇三年一月~十二月)

谷井 俊仁

大清律輯註考釋(五)  
人文論叢20(三)  
重慶大學人文學部  
文科學科研究紀  
要)

松村 茂樹  
吳昌碩の論書―石  
鼓文  
宮内 保・  
玉城 要  
『日知錄集釋』註  
釋(第四回)下  
1 文學部紀要17―  
(文教大學)

芦田 肇

陳啓修、東京にお  
けるその文學的營  
爲・前史(二)―  
「關稅自主」運動、  
「首都革命」(三)、  
「一八」事件―【陳  
啓修覺書き(一)】  
上海版『女の一生』  
―舞臺化された  
『長恨歌』につい  
て

陳 捷

増田岳陽と來日し  
た中國知識人との  
交流について―岳  
陽と中國人の筆談  
録『清使筆語』を  
通して―

八、近、現代

飯塚 容

『THEATRE YEAR-  
BOOK 2002 Theatre  
Abroad』(諸外國  
の演劇事情)―  
(國際演劇協會)

辻 リン

『岐路燈』におけ  
る「觀世」の姿勢―  
『金瓶梅』との關  
わりを通じて―

青野 繁治

施蟄存「石秀」の  
成立

飯塚 容

中國演劇―2002北  
京人藝VS國家話  
劇院

董上 徳

『黨人碑』傳奇佚  
出・佚曲略考  
中國文學論集32  
(九州大學中國  
文學會)

秋吉 收

詩人魯迅攷  
遺言二種―魯迅と  
芥川龍之介  
佐賀大學文化教  
育學部研究論文  
集7―2  
火鍋子58

飯塚 容

中國の小劇場演劇―  
近二十年の歩み  
演劇學論集  
日本演劇學會紀  
要41

中里見 敬

書目を利用した清  
平山堂刊行の小説  
に關する研究のた  
め：劉改之の故  
事、および『彙刻  
書目』諸本の異同

秋吉久紀夫

中國現代詩人李廣  
田の娘李岫女士の  
訪問記  
中國文學評論24

飯塚 容

日本人作家の描く  
現代中國―辻井喬  
『桃幻記』につい  
て  
ユリイカ35―5

中森 史朗

『陔餘叢考』訓譯  
(卷四)

秋吉久紀夫

中國現代詩人方敬  
訪問記  
中國少數民族詩人  
たち  
朝日新聞(夕刊)  
2003・3・3

飯塚 容

日本における中國  
「早期話劇」研究  
舞臺の上の張愛玲  
VS蕭紅―第四回  
「華文戲劇節」か  
ら  
中央大文學部  
紀要194  
ユリイカ35―1

萩原 正樹

『欽定詞譜』の  
『花草粹編』引用  
について  
哀祭・傳狀・碑誌・  
語録・連珠のジャ  
ングルについて―  
『中國古代文體概  
論』より―

秋吉久紀夫

中國少數民族に底  
流する文明  
詩と思想23

飯塚 容

李龍雲の新劇作―  
「家々の燈」と  
「兄貴と呼ばれた  
ら」  
ユリイカ35―10

福井 佳夫

『紅樓夢』神仙世  
界の關する試論―  
警言仙姑の訓戒を  
中心にして―

浅原 達郎

書評：舊街道を行  
く中國近代小説史  
〔中國近代通俗  
文學史〕  
東方269

飯塚 容

『THEATRE YEAR-  
BOOK 2002 Theatre  
Abroad』(諸外國  
の演劇事情)―  
(國際演劇協會)

船越 達志

『紅樓夢』神仙世  
界の關する試論―  
警言仙姑の訓戒を  
中心にして―

池上 貞子

書評：アイデンティ  
ティ二重奏を聴く  
〔傳奇文學と流言  
人生〕  
東方265

池上 貞子

書評：アイデンティ  
ティ二重奏を聴く  
〔傳奇文學と流言  
人生〕  
東方265

池上 貞子	張愛玲文學に見える緒の諸様相と『戀夜』『金鎖記』『更衣記』／chinese life and fashions	跡見學園女子大學文學部紀要36	上田 望	人はなぜ三國志のか―詩讀體講唱文藝に見える三國故通について―	金澤大學文學部論集 言語・文	鎌田 純子	50年代初期の張愛玲―『十八春』を中心として―	野草 72
一海 知義	中國反戰詩の傳統―古代から―原爆行まで	しにか14―6 (大修館書店)	蕭元里花譯	馬伯樂 9	火鍋子 58	河内 利治	臺灣書法藝術教育の發展についての現況考察	41 大東文化大學紀要 (人文科學)
一海 知義	魯迅兄弟と河上肇	火鍋子 58	遠藤 雅祐	『老乞大』各版本中所見的『將』―『把』―『拿』―并論元明清の虚置句―	中國文學研究 29	河内 利治	日本・臺灣書道交流史試論―臺灣における日本統治時代の日本人の書道(關連大事表(186―1945))を中心に―	13 書學書道史研究
伊東 貴之	書評：周海嬰著『わが父魯迅』―父の背中をどう描くか?―『實話』は『小説』を超えられるか?―	『週刊讀書人』 2494	大井田義彰	〈文學青年〉の誕生―評傳・中西梅花(中)―	東京學藝大學紀要 第二部人文科學 54	河村 昌子	プロバガンダから個人史の記録へ―巴金『火』第三部について―	野草 71
伊東 貴之	中國・近現代文學の『終焉』の始まり―集成の季節と新たな地殻變動	圖書新聞 三月 2659	王 敏	書評：『人民中國』創刊50周年記念シンポジウムより―宮澤賢治の中の中	東方 272	菅野 智明	吳隱の西冷印社創立前夜―法帖制作を介した交流―(一)	新書鑑 338
伊東 貴之	二〇〇二年・年末回顧の餘滴から―『世界』文學としての莫言	圖書新聞 四月 2645	大澤 理子	書評：經濟背景に光を当てた文學研究の新たな切り口(『文化與錢』)	東方 264	菅野 智明	吳隱の西冷印社創立前夜―法帖制作を介した交流―(二)	新書鑑 339
岩崎 菜子	『社會活動家』としての謝冰心と次女吳青さん	中國文藝研究會 會報 256	緒方 昭	話劇『茶館』の『數來寶』―世相を語る民間藝能	41 國學院大學紀要	菅野 智明	吳隱の西冷印社創立前夜―法帖制作を介した交流―(三)	新書鑑 340
岩崎 菜子	謝冰心の友人：三島すみ江の晩年	中國文藝研究會 會報 261	尾崎 文昭	中國近現代文學の基本構造とその終焉についての試論	『アジア學の將來像』(東京大學出版會)	菅野 智明	吳隱の西冷印社創立前夜―法帖制作を介した交流―(四)	新書鑑 341
岩崎 菜子	【資料紹介】戦後における謝冰心と三島すみ江の交流	野草 72	甲斐 勝二	研究『華文文學』研究の可能性をめぐって	福岡大學研究部編 2―17	菅野 智明	初期西冷印社と近代美術社團	中國近現代文化研究 6
上田 望・王嶽川共譯	沙汀『一个秋天晚上』譯注	金澤大學中國語學中國文學教室紀要 6	算 文生	郭沫若から贈られた岩色紙	山宣 9			

菅野 智明 法書出版研究序説 言文50(福島大學國語學國文學會)

木村 香織 現代からみた古典の中の女性たち―班婕妤・王昭君(高二)― 漢文教育28(廣島漢文教育學會)

木村 淳 魯迅「理水」における馬について 中國近現代文化研究5

日下 恆夫 破鏡「尙木」重圓―老舍「The Yellow Storm」木尾に重譯された中國語への覚え書き― 中國文學會紀要24尾崎實教授追悼號(關西大學中國文學會)

工藤 貴正 魯迅と嘆美・頽廢主義―板垣鷹穂『近代美術史潮』・本間久雄『歐州近代美術思潮』と『藝術叢刊』『藝苑朝華』を中心に― 學大國文46

工藤千夏子 『呼蘭河傳』の構成 佛敎大學大學院紀要31

栗山千香子 中國現代詩の系譜 しにか14―1(大修館書店)

黄 英哲 香港文學或是臺灣文學―論「香港三部曲」―之敘述視野 文學論叢128(愛知大學文學會)

小島 久代 『青色魔』考 明海大學外國語學部論集15

吳 淳邦 朝鮮時代中韓小説翻譯交流考 中國古典小説研究8

後藤 延子 蔡元培と宗教(その四)―第三章『群學説』―嚴復譯『天演論』との出會い(二) 人文科學論集(人間情報學科編)37(信州大學人文學部)

小林さつき 記録される歴史―李碧華『胭脂扣』の中の意味― お茶の水女子大學中國文學會報22

駒木 泉 魯迅の身邊 火鍋子58

子安加餘子 顧頡剛と民衆文化―『歌謠』から通俗讀物編刊社へ― 現代中國77

是水 駿 中國現代詩の系譜 しにか14―3(大修館書店)

近藤 正義 瞿秋白と茅盾の文藝大衆化論争について 中國言語文化研究3(佛敎大學)

齋藤 敏康 施蛰存と陳西滢の魯迅「明天」論 立命館經濟學52―4

齋藤 敏康 蘇子漂泊のモダニスト―『劉呐鷗全集』を譯す― 立命館經濟學52―5

材木谷 敦 張樂平「三毛公書」について 人文研紀要48(中央大學人文研究紀要)

坂井 洋史 書評：兪平伯後半生の鬱屈(兪平伯的後半生) 東方265

佐藤普美子 中國現代詩の系譜 しにか14―2(大修館書店)

清水賢一郎 臺灣・日本・中國のはざま―楊逵「新聞配達夫」の中國語譯その他― アジア遊學48(勉誠出版)

育 啓明 五四運動新青年派の「反傳統主義」の論理 東洋文化復刊91

范伯群／白井順譯 鴛鴦胡蝶派の再評價について―徐沈亞・包天笑・周瘦鵲の文學活動を中心に― 中國學志蠱號(大阪市立大學中國學會)

白水 紀子 中國文學にみる「近代家族」批判―日中女性文學を通して― 東洋文化研究所紀要143

城谷 武男 闇夜(翻譯) 湘西―沈從文研究5(湘西刊行會)

杉谷 有 朦朧詩論争―傳統を如何に繼承するか― 佛敎大學大學院紀要31

杉野 元子 柳雨生と日本―太平洋戰爭時期上海における「親日」派文人の足跡― 日本中國學會報55

杉村安幾子 錢鍾書の『猫』をめぐって―知識人と自虐のほざま― お茶の水女子大學中國文學會報22

杉本 達夫 書評：文學に生きる人々の聲を聞く(中國當代作家面面觀) 東方263

杉本 達夫 『桃李春風』と一九四三年の老舍 中國文學研究29(早大中國文學會)

垂水 千恵	武内 弘行	高屋 亜希	高橋 俊	高橋 明郎	代田 智明	蘇 徳昌	錢 鷗	鈴木 正夫	杉本 達夫
書評：新たな臺灣文學研究の可能性に満ちたテキストの発掘（『日本統治期臺灣文學集』）	康有爲『日本書目志』の一考察	石評梅小説の（戦士）を巡っての虚戦	國民政府期における識字教育の論理	中華民国80年の社會―『少年頭春的生活週記』の臺灣人物篇―	お腹の子の父親は誰？―錢鍾書―紀念―のミステリー	中國人の日本觀―戴季陶	生命意識・個人觀念と自傳の成立―『飢えてゐる娘』をめぐって	書評：他日への期待もしたい異色の書（『郁達夫研究』）	老舎の死をめぐる斷想―II―
東方 265	名古屋大學文學部研究論集（哲学）49	中國文學研究 29	饗養 11	香川大學經濟論叢 75―4	東方 270	奈良大學紀要 31	言語文化 6―4	東方 272	文學科研究紀要 48―2（早大大學院）
中井 政喜	内藤 忠和	富永 一登	利波 雄一	唐 顯 藝	土屋 肇枝	寧 宗一	趙 平	張 文 菁	仲 肇慶・インバ・ハイツ譯
茅盾（沈雁冰）と「牯嶺から東京へ」に關するノート（四）	檀園埋文學の變容―「故事性」の解體―	魯迅輯『古小説鈎沈』校釋―『幽明錄』	書評：進化し続ける目録―樽本照雄編『新編増補清末民初小説目録』	臺灣白話詩草創期における楊華とその作品	運子建（東北中國の作家たち⑥）	一種特殊文化形態下の小説類型―我看中國武俠小説	茫時如煙、山城渺渺 5 歸郷（後編）	金庸武俠小説とナシヨナリズム	易中天：中國文化の人情
名古屋大學言語文化論集 24―2	島大言語文化 15（島根大學法文學部紀要言語文化學科編）	中國研究論集 11（廣島中國學會）	中國近現代文化研究 5―1	未名 21	中國圖書 15 卷 1 月（内山書店）	北九州市立大學外國語學部紀要 108	火鍋子 58	中國文學研究 29	中國近現代文化研究 5
長堀 祐造	黄克武著／中里見敬譯	中里見 敬	中里見 敬	中里見 敬	沈從文著／中里見敬・「アジアン」語文化論 II 受講 生譯	沈從文著／中里見敬・「アジアン」語文化論 II 受講 生譯	長井 由花	永井 英美	中井 政喜
精讀：賈植芳著「懷念丸善書店」（1）	中國語 12（内山書店）	中國近代文學における浪漫主義の言説：ポストコロニアル文化論・翻譯論の視角から	書評：Lydia H. Liu, 'Translingual Practice: Literature, National Culture, and Translated Modernity-China, 1900-1937' (Stanford: Stanford University Press, 1996)	中國近現代文學における浪漫主義の言説：ポストコロニアル文化論・翻譯論の視角から	三人の男と一人の女	三人の男と一人の女	巴金とスペイン内戦	「孔乙己」と「私」の物語―「孔乙己」を讀む	茅盾（沈雁冰）と「牯嶺から東京へ」に關するノート（五）
		言語科學 38（九州大學大學院言語文化研究會）	言語文化論研究 18（九州大學大學院言語文化研究會）	言語文化論研究 18（九州大學大學院言語文化研究會）	湘西：沈從文研究 5（湘西刊行會）	湘西：沈從文研究 5（湘西刊行會）	お茶の水女子大學中國文學會報 22	火鍋子 58	名古屋大學言語文化論集 25―1



長堀 祐造  
鄭超麟とその時代―  
歴史の中の中國ト  
ロッキー派  
平凡社東洋文庫  
『初期中國共産  
黨群像』トロッ  
キスト鄭超麟回  
憶録』解説論文

藤井良雄・  
陳 舛共著  
俞平伯『長恨歌』  
と『長恨歌傳』と  
が傳える疑義』譯  
注  
福岡教育大學紀  
要52―1(文科  
編)

松谷 省三  
徐悲鴻と出會うた  
めに―徐悲鴻傳記  
研究の書誌解題  
書評：下村作次郎  
編譯『臺灣原住民  
文學選1 名前を  
返せ』  
しにか14―5  
(大修館書店)

長堀 祐造  
レーニン「黨の組  
織と黨の文學(出  
版物)」翻譯問題  
と毛澤東「文藝講  
話」について  
東方學 106

藤澤 太郎  
「縦」から「横」  
へ―若手作家の活  
動にみる左翼作家  
連盟像  
東京大學中國語  
中國文學研究室  
紀要6

松村 茂樹  
吳昌碩の論書―石  
鼓文  
中國近現代文化  
研究6

成實 朋子  
「兒童藝術研究」  
誌における中國兒  
童文學評論につ  
いて  
學大國文46

藤澤 太郎  
文壇への「入口」  
からみた一九三〇  
年代中國文壇(そ  
の一)―施藝存主  
編『現代』を中心  
に―  
鸞叢11

丸尾 常喜  
精讀：魯迅『兔和  
猫』二  
中國語 520

西村 正男  
新居格と中國―あ  
るアナキストにと  
つての「國境」  
徳島大學國語國  
文學16

彭佳 紅  
馬克思經濟學家河  
上肇與中國古詩  
(中國語譯)  
中國現代詩人の紹  
介  
讀游會十周年記  
念號

丸尾 常喜  
精讀：魯迅『兔和  
猫』三  
中國語 521

潘 秀蓉  
周作人と古事記―  
女鳥王と輕太子の  
二篇の翻譯を中  
心に―  
東アジア比較研  
究2

堀田 洋子  
蕭紅の「小城三月」  
について  
杏林大學外國語  
學部紀要15

三寶 政美  
もう一人の解剖學  
教授・敷波重治郎  
先生のことに―松田  
章一氏による調査  
の紹介を兼ねて  
東方 264

平石 淑子  
再論「生死場」  
大正大學研究紀  
要89

牧角 悦子  
中國神話學の夜明  
け―近代中國の學  
術と顧頡剛・聞一  
多の古代學―  
神話と詩2(日  
本聞一多學會)

村上 公一  
臺灣の貸本文化  
(前編)  
衍書月刊2003―1

関 寛 東  
朝鮮時代中國古典  
小説之出版狀況  
中國古典小説研  
究8

村上 公一  
書評：阿堅ほか著  
鈴木博譯『中國美  
味禮贊』  
圖書新聞263

村上 公一  
臺灣の貸本文化  
(後編)  
衍書月刊2003―2

福原みつ希  
劉心武の短編小説  
『班主任』―謝惠  
敏描寫について  
名古屋大學中國  
語學文學論集15

牧 陽一  
書評：高行健著  
飯塚容譯『靈山』  
陸奥新報12月  
8日

村上 公一  
臺灣の貸本文化考  
(1)  
學術研究―外國  
語外國文學編―  
教育學部  
51(早稲田大學  
出版ニュース  
2003―1

藤井 省三  
『人民中國』創刊  
50周年記念シン  
ポジウムより―村  
上 春樹の中の中國  
東方 272

松浦 恆男  
四十年代現代詩の  
可能性―穆旦を中  
心に―  
未名21

村上 公一  
臺灣の貸本屋事情  
出版ニュース  
2003―1

毛丹青	「日中國交回復三〇周年記念連續インタビュー」見つめることが次代をひらく「成熟期を向かう日中関係を語る」	東方264	山路龍天	『紅樓夢』素人版 第二部 作品論 (『テキスト』) 症候群 オペラ・ウリクセア (その2)	言語文化 5-1-3 (同志社)	李振聲	錢玄堂參與《劉申叔先生遺書》編集 始末發微	人文科學論集 (文化コミュニケーション) 37 (信州大學人文學部)
毛丹青	書評：文學は讀むものである (『天涼』)	東方269	山田敬三	華文文學の土壤―言語問題その他	福岡大學研究部 論集 2-1-7	李騰淵	試論 1990年代主要中國文學史的編寫特點	中國古典小說研究 8
毛丹青	『人民中國』創刊50周年記念シンポジウムより 倉田百三の中の中國	東方273	山本明	新詩語の形成 (4) 徐志摩の「生命」をめぐる一	人文研紀要 48 (中央大學人文研究紀要)	劉怡	『風蕭蕭』解讀―「孤島」の喪失をめぐる一	野草 72
陳漱渝／山内一惠	魯迅と女師大事件	野草 71	楊英華	武者小路實篤と魯迅―戯曲―ある青年の夢―をめぐる一	文學・語學 (全國大學國語國文學會)	劉怡	文學―「京派」と「海派」の枠を超えて―北京vs上海 十番勝負⑤	しにか 14-1-8 (大修館書店)
山内一惠	魯迅の教え子、女師大學生呂雲章	火鍋子 58	與小田隆一	陥落直前期の天津における海風社の活動	九州中國學會報 41	劉怡左	都市風俗として描かれた「摩登女性」―黒嬰「當春天來到的時候」を中心―	饕餮 11
山口守	書評：高行健『靈山』	讀書人 2514	吉川龍生	王朔小説序論―スタイルの變遷と第一次朔現象を中心―	藝文研究 84	渡邊晴夫	「耕堂讀書記」について	國學院雜誌 104-1
山口守	都市の孤獨―『たんなばく質な女』と『夢幻部落』	ユリイカ 2003-3	好竝晶	魯迅『故郷』―回憶斷片	火鍋子 58	渡邊晴夫	「古代微型小説」初論	國學院雜誌 104-1
山口守	二十世紀中國文學最後の作家―巴金九九歳を祝う	ユリイカ 2003-12	李瑾	文學活動初期における周作人の女性觀―翻譯小説『俠女奴』を中心に―	中京學院大學研究紀要 18	渡邊晴夫	第四屆世界華文徵型小説研討會に參加して	東方 265
山口守	2002年回顧・動向 收穫・中國文學	讀書人 2518	李國棟	『上海寶貝』的空閑讀解	Hiroshima interdisciplinary studies in the humanities vol. 2	上田望	雲南關索戲とその周邊	金澤大學中國語學中國文學教室 紀要 6
山口守	ポスト・ディアス ポラの文學―黃錦樹のメタフィクショナル	ユリイカ 2003-9	李國棟	魯迅の『小さな出來事』の空間的讀解	廣島大學大學院文學研究科論集 63	九、民間文學・習俗		

上田 望	中國俗文化國際學術研討會	中國古典小說研究 8	朝倉 和	五山文學における「和語」について——絶海・義堂を中心——	國文學放 79 (廣島大學國語國文學會)	大谷 通順	ポクラ宮壁畫に描かれたチベット傳統ゲーム	北海學園大學人文論集 23 併號
上田 望	人はなぜ三國志の物語を「唱う」のか——詩讚體講唱文藝に見える三國志作品の生成と流通について——	金澤大學文學部學集 23 言語・文學篇	安野 博之	江戸時代における「長恨歌」享受の一齣	白居易研究年報 4 (勉誠出版)	大原 正義	『入唐求法巡禮行記』にみる靈仙三藏像	東アジア比較研究 2
緒方 昭	話劇『茶館』の「數來寶」——世相を語る民間藝能	41 國學院大學紀要	石川三佐男	江戸期の秋田漢詩文——益戸滄州の世界——	新しい漢字漢文教育 36	奥村佳代子	『太平記演義』の言葉——『太平記』翻譯に現れた白話觀——	24 中國文學會紀要
岡本不二明	唐代傳奇と樹木信仰——槐の文化史——	岡山大學文學部紀要 40	泉 紀子	繪と詩歌の和漢——平安前期文學に見る——	東アジア比較研究 2	寛 文生	空海と馬總の「離合詩」	中國文藝研究會會報 264
黒澤 直道	雲南省社會科學院東巴文化研究所編譯『納西東巴古籍卷』全 100 卷	東洋學報 85—3	一海 知義	河上肇詩注餘話 (24)	河上肇記念會會報 77	加藤 有子	大友皇子傳考	懷風藻研究 10
繁原 央	昔話における難題モチーフの起源	常葉國文 27	一海 知義	漱石と桂湖村——熊本時代の漢語——	附録月報	木村 晟	『廣本節用集』の「態藝門」における「論語」の受容	駒澤大學文學部研究紀要 61
繁原 央	①——中國の小島前生譚 (2)——追加資料	常葉學園短期大學紀要 34	一海 知義	天は猶お此の翁を活かせり——河上肇の話と書 (1)——	環 15	小金澤 豊	雑誌『斯文』に見る近代漢文教育史	二松學舎大學人文論叢 70
柴田 清繼	傳説上の海島と日本——徐福日本渡來傳説の起源を探るために——	新世紀の日本文學關係——その回顧と展望 (勉誠出版)	植木 久行	『千載佳句』所収白居易詩逸句考 (下)	4 白居易研究年報 (勉誠出版)	國金 海二	日本の望郷詩——江戸後期の名作から	しにか 14—2 (大修館書店)
松家 裕子	首都博物館藏「妙峰山進香圖」について	アジア文化學科年報 6 (追手門學院大學)	上原 作和	『浮き木』の物語——「懷風の琴・異聞」	懷風藻研究 10	後藤 昭雄	本朝文粹抄 (八回)——河原院に山晴れて秋望多しを賦す詩序	アジア遊學 47 勉誠出版
			梅澤昌太郎	書評：再會を期す「サヨナラ」を唱う七五譯 (『サヨナラ』ダケガカ人生カ)	東方 270	後藤 昭雄	本朝文粹抄 (七回)——學生藤原有章の讚	アジア遊學 49 勉誠出版
			太田 亨	日本禪林における中國の杜詩注釋受容	55 日本中國學會報	後藤 昭雄	本朝文粹抄 (八回)——右大臣に奉る書	アジア遊學 50 勉誠出版
						後藤 昭雄	本朝文粹抄 (九回)——老閑行	アジア遊學 51 勉誠出版

十、日本漢文學

後藤 昭雄	本朝文粹抄(一〇)―辨官左右衛門權左大學頭等を申す奏狀	アジア遊學 52 (勉誠出版)	島村 良江	萬葉集卷十七「七言晚春三日遊覽一首并序」について	上代文學 91 (上代文學會)	寺門 日出男	懷德堂文庫藏『萬年先生遺稿』をめぐって	中國研究集刊 調號(32)(大阪大學中國哲學研究室編輯)
後藤 昭雄	本朝文粹抄(一一)―出雲權守藤原朝臣の爲の歸京を請ふ奏狀	アジア遊學 53 (勉誠出版)	清水 徹	伊藤仁齋の詩論における「詩人玉屑」の影響	55 日本中國學會報	泊 功	比較古典教學研究ノート(3) 漢文教學の斷絶と繼承―江戸から明治へ―	人文論究 72 (北海道教育大學函館人文學會)
後藤 昭雄	本朝文粹抄(最終回)―菅原道眞の右大臣を辭する表	アジア遊學 55 (勉誠出版)	繁原 央	駿府大里村稻川轉居の後―山梨稻川詩譯注―	國文瀨名 24	直井 文子	頼山陽の詩社と漁りの歌	新しい漢字漢文教育 36
近藤みゆき	書評：雋雪艶『藤原定家「文集百首」の比較文學的研究』	白居易研究年報 4 (勉誠出版)	新聞 一美	菅原道眞の子を悼む詩と白詩	京都語文 10	中村 綾	岡島冠山の白話語彙をめぐって―『通俗皇明英列傳』『太平廣記』『通俗忠義水滸傳』を中心に―	和漢語文研究創刊號(京都府立大學國中文學會)
蔡 毅	陳曼壽と『日本人詩選』―中國人が編纂した最初の日本漢詩集―	國語國文 72―3	鈴木 健之	運命學をめぐって―中國の事例を中心に―	口承文藝研究 26	中村 綾	源通親「擬香山模草堂記」新考	白居易研究年報 4 (勉誠出版)
酒井 敏	森鷗外のアジア(日本近代文學のアジア一回)	アジア遊學 47 (勉誠出版)	瀬尾 邦雄	水野元朗における春臺の思想的受容の一端について	新しい漢字漢文教育 36	仁木 夏美	源通親「擬香山模草堂記」新考	白居易研究年報 4 (勉誠出版)
佐藤 信一	『翻刻』斯道文庫藏『菅家文章』卷一	白百合女子大學研究紀要 39	孫 久富	『書經』の「蓰」と「古事記」の「孫女」の性質をめぐって	相愛國文 16 (相愛大學人文學部日本文化學科)	日中比較文學研究會	『源氏物語』的文人精神の方法	懷風藻研究 10
静永 健	『菅家文章』に見えたる口語表現	菅原道眞論集(和漢比較文學會編・勉誠出版)	瀧 康秀	熊澤蕃山の述作の意識と和書・和歌	漢文學 解釋と研究 6	二宮 俊博	『懷風藻研究』注釋編(二) 詩番 20 (日勢多(無須)	文化情報學部紀要 2 (福山所學園大學)
柴田 清繼	鴻臚贈答詩讀解について	武庫川女子大學紀要(人文・社會科學) 50	武田 健二	『懷德堂紀年』とその成立過程	中國研究集刊調號(32)(大阪大學中國哲學研究室編輯)	橋本 草子	「郭巨」説話の成立をめぐって	文化情報學部紀要 2 (福山所學園大學)
柴田 清繼	菅原道眞寛平七年對勃海使唱和詩讀解について	鳴尾説林 10	田尻裕一郎	鈴木服「論語參解」私注(五)	東海大學紀要 29	長谷川潤治	少年詩人・井上圖了「新資料」稿本『詩冊』を讀む―	斯文 111
			谷口 匡	下關と頼山陽	斯文第 111 號			

波戸岡 旭 大宰員外帥菅原道真の詩境―『菅家後集』の世界― 9 國學院雜誌104―

波戸岡 旭 渤海關連詩を讀む (一回)―楊泰師「夜聽擣衣」 アジア遊學 54 (勉誠出版)

波戸岡 旭 渤海關連詩を讀む (二回)―楊泰師「奉和紀朝臣公詠雪詩」 アジア遊學 55 (勉誠出版)

波戸岡 旭 渤海關連詩を讀む (三回)―大伴氏上の「渤海入朝」詩 アジア遊學 56 (勉誠出版)

波戸岡 旭 渤海關連詩を讀む (四回)―土孝廉「奉敕陪内宴詩」 アジア遊學 57 (勉誠出版)

波戸岡 旭 渤海關連詩を讀む (五回)―渤海國から渡來した皮衣「ふるさとの皮衣」について― アジア遊學 58 (勉誠出版)

林 晃平 「浦島子」訓讀管見 比較文學論叢11 (札幌大學)

潘 秀 蓉 周作人と古事記―女鳥王と輕太子の二篇の翻譯を中心― 東アジア比較研究 2

東 英壽 伊地知季安における桂菴―『漢學紀源』に着目して― 鹿大史學 50

日高 昭二 中上健次とアジア―陰陽五行と風水思想をめぐって― (日本近代文學のアジア―一回) アジア遊學 57 (勉誠出版)

藤井 必典 埼玉の詩僧 斯文111  
館柳灣と煎茶の師 野村美術館研究紀要12  
友 田能村竹田の詩文にみる煎茶 和漢比較文學 31

船阪富美子 田能村竹田の詩文にみる煎茶 和漢比較文學 31

堀川 貴司 詩懷紙について 國文學研究資料館紀要第29

堀川 貴司 書評：石川忠久著『日本人の漢詩風雅の過去へ』 週刊讀書人第283

堀口 育男 『村居三十律』譯註稿(五) 茨城大學人文學部紀要人文學科論集40

堀 誠 道眞斷腸詩篇考 中國文學研究(早稻田大學中國文學會) 29

前川 正名 橋本左内關係文獻目錄 「福井縣關係漢詩集」橋本左内、橋曉覽」の研究

前川 正名 橋本左内研究の現狀と今後の課題 「福井縣關係漢詩集」橋本左内、橋曉覽」の研究

前川 正名 蘭學者時代の橋本左内―嘉永五年作の漢詩を手がかりとして― 橋本左内漢詩研究(三)―「福井縣關係漢詩集」橋本左内、橋曉覽」の研究 適塾 36

村山 吉廣 久保木竹窓撰文「坂部惟道墓表」解題並びに譯注 斯文111

村山 吉廣 五百城文哉の生涯と詩業 斯文111

村山 吉廣 五百城文哉の生涯と詩業 斯文111

村山 吉廣 佐藤一齋撰文「育英館記碑」解題並びに譯注 斯文111

村山 吉廣 日本における神農信仰―分布に即して― 斯文111

村山 吉廣 増村朴齋の生涯と詩業 新しい漢字漢文教育37

柳澤 浩哉 『山月記』の五つ「の謎」―撞着語法と對照法の畏― 國文學放179(廣島大學國語國文學會)

山口 昌男 大江匡房 比較文學論叢11 (札幌大學)

山谷 紀子 『懷風藻』から勅撰三集へ―小野岑守を中心に― 懷風藻研究10

湯城 吉信 『花間笑話』と江戸小咄との關係について 大阪府立工業高等專門學校研究紀要37

吉澤誠一郎 芥川龍之介の方法と中國―「虚」と「實」の本質的緊張― アジア遊學 56 (勉誠出版)

渡部 英喜 東北文學の世界―「夢母」詩について― 11(盛岡大學文學科)

十一、比較文學

石井 公成 『源氏物語』における顔之推作品の利用―『顔子家訓』と「冤魂志」―「王範妾」 駒澤短期大學佛敎論集―

泉 紀子	繪と詩歌の和漢 平安前期文學に見 る一	東アジア比較研 究2	近藤みゆき	書評：雋雪艶「藤 原定家」文集百首 の比較文學的研究	白居易研究年報 4	塚越 義幸	『おくのほそ道鈔』 と漢詩文(二)― その引用と解釋を めぐって―	野州國文學1 (國學院栃木短 期大學國文學會)
一海 知義	魯迅兄弟と河上肇	火鍋子58	佐藤 一好	『點石齋書報』「火 鼠焚居」について― 事件の教訓性と 「インソップ寓話」 との類似性―	學大國文46	塚越 義幸	『おくのほそ道鈔』 と漢詩文(三)― その引用と解釋を めぐって―	野州國文學72 (國學院栃木短 期大學國文學會)
王 敏	『人民中國』創刊 50周年記念シンポ ジウムより「宮澤 賢治の中の中國	東方272	靜永 健	『千載佳句』所収 崔致遠逸詩句初探	崔致遠撰『桂苑 筆耕集』に關す る総合的研究 (九州大學P& P研究成果報告 書)	都築 久義	尾崎士郎と中國	愛知淑徳大學論 集28(文學部文 學研究科篇)
太田 亨	日本禪林における 中國の杜詩注釋受 容	55 日本中國學會報	靜永 健	『千載佳句』所収 崔致遠逸詩句初探	崔致遠撰『桂苑 筆耕集』に關す る総合的研究 (九州大學P& P研究成果報告 書)	都築 久義	尾崎士郎と中國	愛知淑徳大學論 集28(文學部文 學研究科篇)
岡田 充博	『板橋三娘子』考 (五)	16 東洋古典學研究 (廣島大學)	靜永健・濱 田耕策・川 西裕也・垣 見美樹香・ 西田眞理子	崔致遠『桂苑筆耕 集』本文データ稿	崔致遠撰『桂苑 筆耕集』に關す る総合的研究 (九州大學P& P研究成果報告 書)	中小路駿逸	王維が阿倍仲麻呂 に贈った詩にあら われたる「九州」 「扶桑」および 「孤島」の意味に ついて	追手門大學文學 部紀要39
奥村佳代子	『太平記演義』の 言葉―『太平記』の 翻譯に現れた白話 觀―	24 中國文學會紀要	清水 徹	伊藤仁齋の詩論に おける『詩人玉屑』 の影響	日本中國學會報 55	西山 猛	崔致遠『桂苑筆耕 集』に關する 唐代に現 れた詩語について	『崔致遠撰『桂 苑筆耕集』に關 する総合的研究』 (研究成果報告 書)九州大學教 育研究プログラム ・研究據點プ ロジェクト)
河内 利治	日本、中國、臺灣 の大學における書 法教育の比較研究― 大東文化大學、 中國美術學院、國 立臺灣藝術大學の カリキュラムの分 析結果から―	大東書道研究11	新聞 一美	菅原道眞の子を悼 む詩と白詩	京都語文10	西山 猛	崔致遠『桂苑筆耕 集』に關する 唐代に現 れた詩語について	『崔致遠撰『桂 苑筆耕集』に關 する総合的研究』 (研究成果報告 書)九州大學教 育研究プログラム ・研究據點プ ロジェクト)
工藤 貴正	魯迅と嘆美・頽廢 主義―板垣鷹穂 『近代美術史觀』・ 本間久雄『歐州近 代文藝思潮』概論 と美術叢刊『藝苑 朝華』を中心に	學大國文46	鈴木 満	『輟耕錄』から落 語まで	武藏大學人文學 會雜誌34―3	潘 秀 蓉	女作人と古事記― 二篇の翻譯を中 心に―	東アジア比較研 究2
吳 淳 邦	朝鮮時代中韓小説 翻譯交流考	中國古典小説研 究8	丹波 博之	明治唱歌「あわれ の少女」に見る和 洋折衷の文化―十 九世紀の米・日・ 中・日文化の融合―	東アジア比較研 究2	藤井 省三	『人民中國』創刊 50周年記念シン ポジウムより「村 上春樹の中の中國	東方272

十二、書誌

彭佳紅	庄野英二先生の兒童文學を中國語で日對譯(7)(中)	塚山學院大學	こだはら24(帝)	荒見泰史	中國國家圖書館藏目連變文寫本五點九條本『文選』校勘記(二)	繪解き研究17(繪解き研究會)	大塚秀高編	中國善本書提要所見方功惠舊藏書目	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(1)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
彭佳紅	庄野英二先生の兒童文學を中國語で日對譯(8)(中)	塚山學院大學	こだはら25(帝)	池淵質實	漢唐河川海湖誌輯逸(稿)	中國研究論集11(廣島中國學會)	大塚秀高編	方功惠碧瑯碧館書目(初稿)	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(2)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
彭佳紅	ナーザが東海を騒がす(監修・記)	塚山學院大學	こだはら25(帝)	薄井俊二	靜嘉堂文庫所藏・重文『王右丞文集』	埼玉大學(人文・社會科學)52	大塚秀高編	方功惠碧瑯碧館書目(初稿)	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(3)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
堀誠	九尾狐綺想―姐己と玉藻の前―	塚山學院大學	ユリイカ2009年1月號	内田誠一	靜嘉堂本『王右丞文集』刊刻年代考	中國文學研究29	菅野智明	法書出版研究序説	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(4)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
松崎治之	菅公と白樂天―その詩境をめぐって―	論叢14(筑紫女學園大學・短期大學・國際文化研究所)	論叢14(筑紫女學園大學・短期大學・國際文化研究所)	内田誠一	『老乞大』各版本中所見的「將」	日本中國學會報55	菅野智明	倉石文庫戲曲曲藝書目	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(5)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
毛丹青	『人民中國』創刊50周年記念シンポジウムより	倉田百三の中の中國	東方273	遠藤雅祐	『把』『拿』并論―元明清的虛置句―	中國文學研究29	興膳宏	中國古典學	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(6)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
楊英華	武者小路實篤と魯迅―戯曲―ある青年の夢―をめぐって―	文學・語學(全國大學國語國文學會)	文學・語學177(全國大學國語國文學會)	大木康	明清兩代における鈔本	明代史研究會創立三十五周年記念論集	佐藤信一	《翻刻》斯道文庫藏『菅家文草』卷一	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(7)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
吉川榮一	何震と幸徳秋水	文學部論叢79(熊本大學)	文學部論叢79(熊本大學)	大塚秀高	江戸時代における漢籍の流轉―佐伯文庫を例に―	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(8)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に	静永健	資料紹介：東京国立博物館藏古筆切卷六十六の本文について	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(9)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
劉徳有	『人民中國』創刊50周年記念シンポジウムより	心と心のふれあいを―文化比較の視點から	東方271	大塚秀高	佐伯文庫舊藏暨現存書目録(漢籍之部)解説(其の一)	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(10)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に	静永健	東京国立博物館藏古筆切卷六十六の本文について	科學研究費補助金(特定領域研究)(A)(2)(11)『江戸時代における漢籍の流轉』佐伯文庫を例に
孫猛	日本國官佐軍官目錄・刑法家考(一)	人文論集41(早稲田大學法學會)	人文論集41(早稲田大學法學會)	孫猛	日本國官佐軍官目錄・刑法家考(一)	人文論集41(早稲田大學法學會)	孫猛	日本國官佐軍官目錄・刑法家考(一)	人文論集41(早稲田大學法學會)

武田 健二 『懷德堂紀年』とその成立過程 中國研究集刊調  
號(32)(大阪  
大學中國哲學研  
究室編輯)

張 娜 麗 西域發見の佚文資  
料(三)―大谷  
文書集成―所收寫  
經斷片について 學苑 759

陳 捷 東京都立中央圖  
書館藏『清使筆語』  
翻刻 143 東洋文化研究所

土谷 彰男 『唐五代文學編年  
史・初盛唐卷』人名  
索引 中唐文學會報 10

寺門日出男 懷德堂文庫藏『萬  
年先生遺稿』をめぐ  
って 中國研究集刊調  
號(32)(大阪  
大學中國哲學研  
究室編輯)

利波 雄一 書評：進化した續け  
る目録―樽本照雄  
編『新編増補清未  
明初小説目録』 中國近現代文化  
研究 5―

中里見 敬 書目を利用した清  
平山堂刊行の小説  
に關する研究のた  
めに―劉改之の故  
事、および『彙刻  
書目』諸本の異同  
中國古典小説研  
究 8

西口 智也 詩經研究文獻目録  
〔邦文篇〕(平  
成3年)―(平  
成11年)―19991991  
年) 詩經研究 28

西村 正男 新居格と中國―あ  
るアナキストにとつ  
ての「國境」 徳島大學國語國  
文學 16

長谷川潤治 少年詩人・井上圓  
了―新資料・稿本  
『詩冊』を讀む― 斯文 111

関 寛 東 朝鮮時代中國古典  
小説之出版狀況  
序にかえて(拍案  
驚奇譯注1)廣大  
の『拍案驚奇』の  
傳來について 汲古書院

古田 敬一 驚奇譯注1)廣大  
の『拍案驚奇』の  
傳來について 汲古書院

翠川 信人 中國古代哲學・歷  
史文獻中における  
『詩經』各篇別の  
引用狀況一覽(2)  
―小雅― 東方研究 2(亞  
細亞文化交流協  
會)

許山 秀樹 宋版に由來する二  
種の杜牧の版本に  
ついて 中國文學研究 29

山口 謠司 <集部>機能につ  
いての一考察 大東文化大學漢  
學會誌 42

山根眞太郎・  
財木美樹 倪其心『校勘學大  
綱』譯注(二) 國際言語文化研  
究(鹿兒島純心  
人間學部)

【前集訂正】

三四七頁中段(誤) 神奈川大學人文研究叢書↓  
(正) 神奈川大學人文叢書

三五一頁上段(誤) 潘嶽↓(正) 潘岳  
三五三頁中段(誤) 矢島↓(正) 矢嶋

三五六頁上段(缺) 中國詩文論叢↓(正) 中國  
詩文論叢 21

三五七頁上段(缺) 文藝言語研究・文藝篇↓  
(正) 文藝言語研究・文藝篇 42

三五七頁上段(誤) 中唐文學報↓(正) 中國文  
學報

三五七頁中段(缺) 石玉崑による包公説話の改  
編↓(掲載誌) 『中國讀書人の政治と文學』  
(創文社)

三六二頁上段(誤) 嶽飛↓(正) 岳飛

三六七頁上段(誤) 日本中國當代文學研究會↓  
(正) 日本中國當代文學研究會會報 16



## 1 はじめに

本學會展望執筆のための基礎データは、例年の通り會員各位からの業績申告に基づき作成した。自己申告頂いた申告数は、紙ベース「會員業績報告書」九十六件（のべ件数。一通に複数件数の申告もあり、また代表者が関連する論考をまとめてお寄せ頂いたものもあるので、實数はこれより少数である。）、インターネット利用の email 受信数六十五件（のべ件数）、およそ本號の収録数は單行本・論文あわせておよそ九二〇件ほどであるので、自己申告の全體に占める割合は一分七厘である。したがって、八割ほどを擔當者が補った。おそらくは、この數値は前任者からの引き継ぎした數と大差ないので、ここ數年大きな變化はないと思われる。しかし、この數値をいかに認識するか、こうした状況をいかに分析するかは看過できない問題を孕んでいるように擔當者には思われる。

これは一つには、研究者の業績に對する公開性の原則をいかに認識しているか、學會への歸屬意識をいかに考えているか、會員であることと収録業績との關連性などが関わっていると思われる。とりわけ學術のおかれていた状況を端的に指し示すものとして、掲載論文に占める會員・非會員の比率を調べてみると、約二割強が學會員以外のものであった（平成十五年十月發行、二〇〇三年版日本中國學會『會員名簿』による。）逆に言えば、學術論文に占める會員の極めて高い比率に意を強くするのであるが、

非會員の内容をつぶさに見てみると、中國學の置かれていた状況を一方で物語るものとなっている。

非會員の業績で目立つのは、關連領域に關するもので、本來は歴史學・考古學・美術史・藝術・宗教學・文化人類學などの分野で活躍されており、それが中國文學との關わりを持つようになって掲載の範疇に入ってきたものである。つまり、學術の領域の擴大化や學際化により拍車がかかっていることの現れであろう。これは、本來は他の學分野、すなわち必ずしも中國哲學・文學・言語を専門とするのではないが本會に所屬され、活躍されている研究者と本質的な相違がないように思われる。だが、中國學を總合文化的に考えるのであるならば、むしろ歴史學や宗教學を専門としながらも、本學會との雙方向的な關係を保とうとする姿勢に學ぶべきであって、ことからは中國文學を専門とする立場にとつても例外ではない。本來、中國學は廣く學べと言われているが、歴史・宗教は言うに及ばず、日本學・東アジア學・比較文化へとその範圍は周邊領域まで包み込んで、そのディシプリンを考える時代になっている。さらに非會員の業績で目立つのは、外國人研究者のものである。外國人會員の數も従前と比較できないほどの多數を占めるに至っているが、なお多くの研究活動を續けている方々がいるということであろう。短期・長期を含めて日本に滞在して勉學を重ね、學位を取得し、あるいは日本で教鞭を執っておられる研究者の業績である。つまり、國際化の進捗の現れであろう。しかし、國際化とは、また雙方向的か

つ互惠的であるとの謂いであつて、本學會が國際的に果たす使命をも自覺しなければならぬ時代になっている。と同時に、グローバル化の中での日本中國學の旗幟を鮮明にする必要性も迫られている。

そして最後に非會員の業績で目立つのは、若手研究者のものである。おそらくは、大学院博士課程前期・後期課程在籍者で、やがては本學會の會員になられる方々であろう。費用の面や契機がないままに未加入であると思われる。しかし、あわせて考慮しておくことは、研究の深化に伴い研究對象が細分化・個別化され、より自らの研究對象に近い學會や研究會の結成が促され、どちらかといえばそうした研究會・學會を近いものと感じ、そちらを活動の據點と考えている傾向がなくなることである。だが、學會の裾野が廣がり、各分野・各時代の研究が活性化することは、日本中國學會にとつて決して悪いことではない。むしろ、中國學としてそれらをいかに統合するかが問われよう。

こうした動きが最も顯著なものとして指摘できるのは、「學界展望（文學）」の部門における十二の分類でいえば、「八、近・現代」と「十、日本漢文學」「十一、比較文學」であつて、この分野は従來から擴大の傾向にあり、また獨自に多くの會員を有する中國語學會や日本文學の各分野ごとの學會がある。このことは、學問の系統やディシプリンとの關わりから言えば、「八、近・現代」が中國語教育と密接に關係し、「十、日本漢文學」「十一、比較文學」が日本文學の古典教育と深い關係にある。すなわち、

ともに研究対象とするための研究方法とが比較的に明確であり、しかも共有されている。言い換えれば、研究者の養成といった意味では、教育と研究との循環がシステムとして機能している。

一方、中國學の樞要な部分を占める古典研究は、従前のごとく中等教育における漢文教育をその前提として考えることができにくい時代になっていることは、對照的であるといつてよいだろう。つまり、中國學をまなぶ基盤整備が問われているようにみえる。一つは、共通する研究対象へのスタンスである。中國語教育と漢文訓讀教育との有機的な連携、古典教育の新たなプログラムの創出が求められている。従來の研究と人材教育とが必ずしも有効な循環を期待できないでいる現況では、焦眉の急を告げる課題である。今後は英語を通して中國學に入る場合もあるうし、中國語の履修を通して中國學に關心を持つこともあろう。もう一つは、融通性の確保である。ディシプリンとプロジェクトについては前號で述べたが、廣領域の課題や特定課題については、學會を糾合して當たる態勢をとらねばならなくなっている。以上、會員・非會員の業績を整理分類して気づいたことを記した。研究の現況を把握せんがためであつて、他意はない。會員各位の成果は、こうした非會員の業績を合わせ鏡として寫すことによつて、より明確にその輪郭を浮かび上がらせると考える。

こうした判断に沿つて、申告頂いた成果・補充した成果より二〇〇三年の學會を展望すれば、以下の諸點を特徴として擧げることができるだろう。廣領域

域化・國際化・學際化に伴い、(ア)斷代史的・個別的な研究から通史のかつ系統的な研究への視點の推移、(イ)宗教と文學との關わりへの注視、(ウ)古典小説關係の論考・譯注の充實などである。

## 2 通史的・系統的な視點

文學研究は、多くの場合研究主體と研究対象がそれぞれに響き合い、共感することから出發する。これは、一編の作品と讀者が向き合うことで成立する考えなのだが、文學がどのように傳播傳承され、次代の受容を経て變質していくか、あるいはそのテーマの本質が何であるかなどの問題點は、ややもすると看過されやすい。

こうした姿勢は、一見すると文學史的な研究と混同しがちであるが、さまざまな事象を總體的かつ通史的に敘述する文學史的な研究と、あるテーマに沿つて様式や主題の消長や變容を追うことで共時的な廣がりや時代相とを具體的かつ個別的にとらえようとする研究方法とは異なると言える。研究の細分化という言葉では片づけられない、むしろあるテーマに沿つた動態研究というべき研究方法であり、今後の文學史的研究におおいに資するものであると考える。

川合康三著『中國のアルバー系譜の詩學』(平成十五年四月、汲古書院)は、標題ともなる巻頭論文は、中國文學における「後朝の別れ」を主題とする文學の傳播と系譜を追いながら、西歐の *alba* に匹

敵する作品を概観し、文學に見られる倫理的側面、民歌と文人の創作との差異、文學のエネルギーの流れ、傳播の過程でのさまざまな捨家、などの廣く文學全般を考ふるに際しての問題意識を喚起している。「蟬の詩に見る詩の轉變」「悲觀と樂觀―抒情の二層」「岷山の涙―羊祜「墮淚碑」の繼承」「半夜鐘―詩話に見る詩觀の轉變」の所收論文は、いずれも著者の「作品を系譜のなかに置いてみると、よりよく理解できるように思われます。中國古典文學はとりわけ様式性が強固なものですから、それは當然そうあるべき讀み方といわねばなりません。そして文學の系譜のなかに置いてみると、作品は因襲に寄りつつも、やはり時代による變化を被っていることも浮かび上がってきます。傳統の繼承と傳統からの逸脱、ないし傳統の創新―それこそ文學が展開していく機軸にほかなりません。」(あとがき「系譜の詩學」をめぐつて)と主張する觀點からの論考である。

松原朗著『中國離別詩の成立』(平成十五年八月、研文出版)は、中國文學とりわけ古典詩歌の主要なテーマである「送別詩」「留別詩」を離別詩として一括し、その發生から形成定着までを系統的に研究する。本書の視點は、公讌・應制・侍宴などの公的制約の中から個人的抒情が何時いかなる形で兆し定着していくかという形成史からの問いかけには、南朝宋の鮑照を先河として南齊永明年間以降多作され、その間に定着し梁の何遜に至つて個性化し、唐代に及ぶ詩歌進展の見通しをつけている。また、從來「送別詩」一般としてのみ見られる傾向のあつた詩

歌を、離別の行爲を通して送者・被送者の視點から區別し、それぞれの視點で作品を鑑賞しようとする。送別の場における儀禮を圍む詩歌との関わりの記述は、創見に富む。引用作品に對する通時的かつ共時的比較検討は、分析・推論を通して作品解釋の妥當性を析出していこうとする姿勢であつて、中國古典詩歌の研究方法の在り方として注目すべきであらう。

竹村則行著『楊貴妃文學史研究』（平成十五年十月、研文出版）は、歴史上の楊貴妃をめぐる文學作品の生成進展を通して文學とそれを包んだ時代性とを看取しようとする。「長恨歌」によって代表される玄宗と楊貴妃との戀愛物語がいかに形成されたかは、中國文學を學ぶ者にとって興味ある問題である。

玄宗と楊貴妃との悲戀は、それに先驅ける「驪山温泉宮」故事とも呼ぶべき一群の詩歌があり、故事としての形成がいかに展開したかを指摘している。多くの人々の耳目を惹いたこの故事を、のち宋における「楊太眞外傳」「梅妃傳」を書誌學的に檢證した上で、元曲「梧桐雨」および明曲「驚鴻記」、清の「長生殿」の詳細な分析を通して主題と作者、作品の傳播といった視點より分析を加えている。魯迅に及ぶまで關心を呼んだこの物語の展開は、著者の長年におよぶ研究蓄積にもとづいた多くの卓見によって新たな様相を呈しているといつてよい。中國文學にとつて、一人を機軸として進展する主題はそうはない。その意味で、おおいに關心を引かれるとともに、主題の系統的研究の好個にして典型的な例であると言えるだろう。

以上各氏の論考は、ある一つのテーマに沿つてその主題の發生から成立・進展を通してその文學的變容や進展のメカニズムを明らかにしている。限定されているテーマでありながら、けつしてそれに躡躑しない、むしろ文學全般に目配りの利いた廣範な研究であるとの印象を受けた。それは、通史的かつ系統的な視點が、隣接するさまざまな分野や全體に占める部分の認識を前提としているからであつて、從來の斷代史的・個別的研究の通弊を補い、新たな研究方法の提示という點で注目したい。

### 3 宗教と文學との關わり

日本における中國學と隣接する諸學の學術的接近や重なりは廣領域化・學際化という動向からすでに述べた。一方で、中國文學側から關連分野に對してどのような傾向を指摘できるだろうか。誤解を恐れずにいえば、中國思想史・歴史學や宗教學に對して關心を拂うことが比較的すくなかつたことであらう。ふるく、中國文學と佛教との關係上、兩者間の影響關係について論争があり、議論を呼んだことがあつた。中國においては、西歐的な宗教と文學との關係が成立しないと否定した論者の意に反して、佛教とわけて禪學の文學に與えた研究はすでに周知のことであるし、道教研究の擴大深化は彼此の間にあつて目を見張るものがあり、その影響關係については研究の充實發展が期待できる。近年の研究で最もめざましい分野であるといつて過言ではない。とりわけ

道教への注視は、佛教に比較して遅く、喫緊の課題といつてよい。いうまでもなく、中國學にとつて宗教研究はその大事な領域なのである。中國文學にとつても、その視點を缺くことは本質を見失うおそれがない。

しかし、その進捗や深化が中國文學研究者の共通の認識としてあるかは別であつて、必ずしもそうではない。いや、むしろ立ち遅れている嫌いすらある。そうした思いが形になつて現れたものが、平成十五年度日本中國學會第五回大會シンポジウム「道教と中國文學」（平成十五年十月五日）であらう。これは、宗教から見た道教ではなく、中國文學にとつて道教と接することはいかに豊かになつたか、また研究上いかなる視點を有すべきかを考えようとする企畫であつた。コーディネーターの小南一郎教授は、次のように指摘する。「宗教と文學との關わりをどのように理解するのかは、古くて新しい問題である。：宗教文學をいかにあつかうかについては、禪文獻などに對する仕事を除いて、中國文學の領域ではまだ十分には檢討がなされていないように見える。佛教・道教に對する知識が不可欠だとされて來たのは、古典小説の研究領域であつて、それに關して、すでに少なからざる成果が挙げられている。しかし、厳しく言うならば、そうした成果は、宗教的な知識を作品に適用しただけで、作品が宗教と關わり合うことで得た文學的な實質がなになであつたのかについては、十分に檢討がなされたとは言えないのではなからうか。ここで主として檢討されるのは、傳統的な

文人たちが、その作品内部に道教的な空間を構築することに、作品をいかに豊かなものにしていくかについてである。」

中国にあつてはすでに先驅的業績として葛兆光氏の『道教與中國文化』（一九八七、上海人民出版社）、同氏『想像力的世界―道教與唐代文學』（一九九〇、現代出版社）、詹石窗氏『道教文學史』（一九九二、上海文藝出版社）があり、近年も孫昌武氏の『道教與唐代文學』（二〇〇一、人民文學出版社）、楊建波氏『道教文學史論稿』（二〇〇一、武漢出版社）など、陸續と刊行され、道教關係の基礎文献の整備刊行と相俟って、さらに進捗を期待できるであろう。

葛兆光氏の『道教與中國文化』は、一九九三年に譯書（坂出祥伸監譯、大形徹・戸崎哲彦・山本敏雄譯、東方書店）が刊行され、該書に對する松本肇氏の書評（平成六年五月、東方宗教八三）があり、孫昌武氏『道教與唐代文學』に對する書評は戸崎哲彦氏によりなされている（平成十五年五月、東方宗教一〇一）。

中國文學を學ぶものが視野に入れておいてよい、近年の關連領域の成果を管見の範囲で挙げれば、三浦國雄著『不老不死という欲望―中國人の夢と實踐』（平成十一年三月、人文書院）、加納嘉光著『風水と身體―中國古代のエコロジー』（平成十三年十一月、大修館書店）、加藤千惠著『不老不死の身體―道教と「胎」の思想』（平成十四年十二月、大修館書店）、土屋昌明著『神仙幻想』（平成十四年十月、春秋社）、淺野春一著『飛翔天界―道士の技法』（平成十五年

十月、春秋社）などがある。三浦氏の書は、絶えず文學を視野に入れて研究を進める專家の研究として、加納氏の書は文學を専らとする研究者側からの風水および道教關連研究として、加藤氏の書は近年道教研究でも注目を浴びている「内丹」との關わりを「胎」の技法から解き明かし、文學との影響關係を示唆するものとして、土屋氏の書は中國文學と道教との關わりをわが國で早くから主張し、より文學を主として研究する視座を提供しているものとして、淺野氏の書は儀禮の專家としてそのもつ意味をより分かり易く説くものとして、それぞれ文學との關わりを考える際の大きな示唆を與えてくれるものであると考える。

「李商隱と女道士」（詹滿江、『杏林大學外國語學部紀要』十五）は、李商隱詩における道教的要素を用語や女道士との關係から考察する。詩人と女道士の結びつきにある種役割を與えたのが女冠觀であると想定している。「陸機の神仙の賦をめぐって」（小嶋明紀子、『二松學舎大學人文論叢』七二）は、陸機の神仙賦にいかん神仙思想が反映しているかに考察を加えている。現況を見た場合、必ずしも宗教と文學との關係性を強調する論考が目立つわけではないが、これはむしろ自然であつて、文學研究にとつて宗教的な意味がいかんあるかを考えるべきであり、それが翻つて歴史研究や宗教研究に還元することにもなる。ただ、向後の研究は宗教的な要素を考慮に入れなければ、大きな視座を缺くということだけは確かであろう。

#### 4 古典小説關係の論考・譯注の充實

歐米のシノロジーにおける基盤形成は、まずは作品・書物の讀解や譯注からなるのは言うまでもない。しかし、日本中國學における譯注・翻譯・書評は歐米における成果ほど重要視されていない。それは前述したことがらと關わるのであるが、そうした基礎的成果はいわば自明のことであつて、その上に立論することを重視してきた傳統があるからである。しかし、現在なおもそうした價値觀を墨守することには、違和感を覚える。中國學を志す若き學徒に示すディシプリンとして非常にわかりにくいからだ。立論は、正しい讀解に立脚することやうまでもない。そうしたことを確認した上で、積極的に譯注や翻譯を奨励し、斯學に貢獻している例として廣島大學を中心とする古典小説關連の成果を取り上げたい。廣島大學は、『中國中世文學研究』『中國學研究論集』『中國古典文學研究』を逐次刊行物として發行し、積極的に古典小説關係の論考を收載している。とりわけ富永一登教授の主導する『太平廣記』の譯注（『中國學研究論集』十二號には卷三百八十七「悟前生」、繼續的に刊行されている魯迅輯『古小說鈎沈』校釋（同前、「幽明錄」四）の連載などがある。中國古典文學プロジェクト研究センターにより創刊された『中國古典文學研究』（平成十五年、十二月）には文選や古典詩歌のほか、「六朝志怪に於ける狐狸」（先坊幸子）「地域の視點から見た古小説の研究

究に向けて」（高西成介）などの古小説關係の基礎的研究が掲載されている。

「唐宋變革期における家族規模と構成—小説史料による分析」（大澤政昭、『唐代史研究』六）は、唐代史を専門とする著者の『太平廣記』などの史料を駆使しての研究で、文學研究者に別の角度からの視座を與えている。「板橋三娘子考（五）」（岡田充博、『東洋古典學研究』十六）は、當該説話の話柄博搜と傳播の研究の最終章。小説の傳來と變容、類話の比較検討、これからの小説研究上、一つの視座を與えてくれる。「演劇的側面からみた唐代傳奇—柳毅傳—」（岡本不二明、『岡山大學文學部紀要』三九）は、唐代傳奇小説「柳毅傳」の演變を演劇的側面から照射する。「唐代傳奇と樹木信仰—槐の文化史」（岡本不二明、『岡山大學文學部紀要』四十）は、南柯太守傳などに見られる槐の題材としての位置を文化史から見る。「唐代傳奇杜子春傳に見える道教的用語再考—（中）「白石三丸」考」（増子和男、『日本文學研究』三九）は、唐傳奇と道教との關わりを題材としての仙藥から考察する。著者の繼續的研究の一環である。

中國古典小説研究會の活動は、清朝以前の古典小説を研究對象として平成七年以來『中國古典小説研究』を發刊して平成十五年に至るまで八號を刊行し、毎號論文の他に書評・論文目録・學會報告などを掲載し、地道な活動を繼續している。『中國古典小説研究』八號には「書目を利用した清平山堂刊行の小説に關する研究のために」（中里見敬）「金瓶梅罵語

考」（川島優子）「脂硯齋重評石頭記における石の語りから見た視點について」（福永美佳）の論考や朝鮮時代における中韓の小説に關する交流などの論考を掲載している。

## 5 ディシプリンとしての論著

小南一郎著『楚辭とその注釋者たち』（平成十五年七月、朋友書店）は、中國古典の源流に位置する楚辭を、屈原という作者から切り離し、楚辭文藝の形成過程を「楚人」の動向を通してとらえようとするものである。文學を表現されたものとして、そこから時間意識・「天」の認識、作品の構成・楚辭全體の編成を讀み解く論考には、中國古代の文獻を扱う際の鋭利な切り口が認められる。楚辭は決して屈原一人の手に出るものではない、それを支え、傳承する人々を考えなければ成立しない、との主張には大いに説得力がある。また古典の受容と傳播という論證にくいテーマを、王逸「楚辭章句」や朱子「楚辭集注」を例に注釋の形態から論ずるのが後半である。漢代と宋朝との古典の受容と評價といった點から、前者における模倣實作と後者における評價受容という差異で見ることができるといふ示唆も得た。著者積年の成果である。

佐藤大志著『六朝樂府文學史研究』（平成十五年二月）は、總論「六朝樂府文學史考」と各論「六朝樂府をめぐる諸問題—鮑照を中心として」からなり、依曲填詞を本來とする樂府の音樂斷絶を背景とする

消長を指摘し、東晉の斷絶を経て樂府詩の復活の背景に樂府題のイメージに基づく製作方法や遊戲的な具として利用され、梁・陳におよぶ定着の過程を明らかにしている。門閥貴族ではない鮑照は、獨自な文學的な個性を見せている點につき、文學製作を促す契機や貴族と異なる接點を指摘している。卷末に、一九三〇～二〇〇〇に及ぶ「漢魏晉南北朝樂府關係論著目録」和文篇・中文篇を付している。

今場正美著『隱逸と文學』（平成十五年六月、朋友書店）は、陶淵明と沈約の文學、および齊梁時代の文學理論についての論考からなる。陶淵明の文學を玄言詩から評價し、「景」と「情」との關わり、「形影神」の位相、陶潛の模倣者王績への照射、蘇軾の「和陶詩」などから位置づける。沈約の文學については、隱逸の枠をもってとらえ、その人生と處世を文學からとらえようとする。晩年の沈約を理解するための資料として「郊居賦」の詳細な譯注を付している。

田中和夫著『毛詩正義研究』（平成十五年二月、白帝社）は、詩經詩篇の解釋史を毛傳・鄭箋以降歴代の注疏に沿い、その實態の解明と比較分析を行っている。古典の源流とも言える詩經詩篇は、傳統的にさまざまな潤色を経てきている。それは、また一方で詩篇をめぐる各時代の精神の反映であって、著者にはまずはその時代の解釋に立ち戻って考察し、各時代の時代相を明確にし、『詩經』の受容史・解釋史を明らかにする意圖があるようである。いわば、本書は詩經解釋史の漢唐を中心に見た成果である。

古川末喜著『初唐の文學思想と韻律論』（平成十五年十二月、知泉書館）は、本論第一編「漢魏六朝期の文學思想」、第二編「初唐の國家と文學思想」、第三編「六朝隋唐の韻律論をめぐる文學思想」からなり、附論として「五言律詩の平仄式、及び句句について―教學上の觀點から―」を配する。前半の論考は、文學を賦・文・書簡・詩歌など諸様式を通して、文體の意識・機能・變容を論じ、唐建國に際して文學をいかにとらえていたかを究明する。後半の韻律論は、文學評論上の韻律論といった歴史的な面と、詩歌の本質をいかにとらえるかの問題提起を試みている。従来、あまり顧みられることのなかった點に研究の照射を與えている。

松浦友久著『中國詩文の言語學―對句・聲調・教學（松浦友久著作選Ⅰ）』（平成十五年九月、研文出版）は、著者の遺文集全四卷の第一卷。二年前に亡くなった著者の著作集であり、本卷には對偶論・聲調論・教學論の三部からなり、著者の研究における古典文學に材を採った言語學的な部分とそれを應用した教學面での業績が收められる。古典文學とりわけ古典詩歌の比較分析と精緻な語學的な考察を特色とする著者の學問が、斯學に與えた影響は大きい。身近でかつ典型的な題材を例示しながら、問題の本質を析出していく著者の手法は、文學研究の一つの在り方を示すものとなっている。また、著者が生前唱えていたわが國における漢文訓讀の歴史的所産と現代中國語および古漢語の有機的な結びつきを、いかに考えていたかをそれぞれの論考は窺わせる。人

間の生理としてのリズムやアクセントへの關心は、著者若年の頃に日本語より出發していることを思う時、中國學のわが國における傳統性と普遍的中國學の關係を考慮されていた著者の學問的關心が、今もけつて色あせていないと思うのは執筆子だけではないだろう。

岡本不二明著『唐宋の小説と社會』（平成十五年、十月、汲古書院）は、前者『中國近世文言小説論考』（平成七年十二月、岡山大學文學部研究叢書十二）を承ける研究で、唐から宋へ及ぶ文言小説の研究である。中國の小説研究が、どちらかというと比較的文學史的にとらえようとする傾向なのに對して、わが國の研究は作品ごとの個別テーマにそつた方法を模索する傾向にある。本書は、その意味で傳統的方法を踏まえながら、テーマごとに新たな視點と方法を導入して新機軸を出している。唐宋變革期を志怪小説・唐傳奇から照射しようとする。

東英壽著『歐陽脩古文研究』（平成十五年一月、汲古書院）は、所謂「唐宋古文」と括られる古文の流れを歐陽脩を中心に考察する。従来、「古文運動」と規定してきた古文の流れを單に文學運動として機能することはないといった立場から、科擧との關わり、とりわけ「行卷」を軸として具體的な復興の過程を提示する。「文人」「文」「道」などの術語はこれまでになやや廣義に使われ曖昧性が残るとして、儒家的な教養をもつた政治家という性格付けを行い、やや觀念的なとらえられ方を示してきた唐人の古文を北宋に至る具體的な経路を示したことは注目してよ

い。同時に外編として付された歐陽脩のテキストに對する書誌學的な論究は、研究對象をいかに措定し、吟味するか的好個の例を示している。

丸山浩明著『明清章回小説研究』（平成十五年二月、汲古書院）は、明清期の小説をとくに説唱文藝から誕生した章回小説、とりわけ「世代累積型」の成書である『三國志演義』『水滸傳』『西遊記』を研究對象とする。小説中における詩詞駢文などの美文的要素の受容と變容を通して話者・編者・作者と聞き手・讀者がいかに時代の空氣を反映しているかを考察する。また、宋代以降印刷技術の盛行に伴い、經と注疏との合刻の風潮が明代に至つて小説に及び、評論付きの本が刊行されて以降の定本となることに着目して、小説と評論との關係から受容と進展を考察する。變化にのみ注目するのではなく、定型化に意義を求めようとする。

大木康著『馮夢龍「山歌」の研究』（平成十五年三月、勁草書房）は、詳細な譯注に基づく「山歌」（民歌）の研究である。著者はこれまでに馮夢龍の生涯・出版活動・思想などの研究を通して明末知識人の精神史を明らかにしようとしてきた。本書もその一環である。詩經・樂府以來續く民歌の系譜に位置する蘇州方言での山歌を、何故に馮夢龍が多く残しているかを、書誌的研究、傳承の「場」とその移行に伴う題材内容の變化についての研究、傳播研究を通して、馮夢龍における「風」すなわち民間性情の吟詠と、「雅」すなわち文人詩壇の詩歌という對蹠的認識を指摘する。その上で、前者は「眞」後者

は「假」であり、末世の現在にあって「真」を評價して「假」を非難する馮夢龍の立場を明確にしている。同時に、それは詩經以來觀念的に今なお生きている民歌の文人への影響という點で、きわめて好個の具體例を我々に知らせるものとなっている。

樽本照雄著『清末小説叢考』（平成十五年七月、汲古書院）は、『老殘遊記』については、劉鐵雲と黃河治水との關係、劉鐵雲逮捕の無實を論證する。『官場現形記』『増注官場現形記』については、原初からの書誌的研究。『續像小説』については、編者李伯元であることの證明および關連の論考。これまでの著者による清末小説研究をうける成果である。

佐藤一郎著『中國文學の傳統と再生—清朝初期から文學革命まで』（平成十五年三月、研文出版）は、古典の世界から現代世界へ著者の言う「なにが傳統中國と連續し、なにが斷續しているか知らなくてはならない。」立場から、明末から文學革命までの連續性と非連續性とを清朝の學術の動向を、考證學の周邊と桐城派の形成を通して述べ、それを經て公羊學と政治およびアヘン戰爭との關わり、自國への危機意識がやがて新しい世界の指導者、すなわち梁啓超・胡適・魯迅を生み出していく過程を文學革命を中心に敘述する。著者の思想・文學・言語にあいわたる研究をとの主張は、おおいに同意すべき聲として響いてくる。

稻畑耕一郎著『神と人との交響樂—中國假面の世界』（平成十五年十月、農文協）は、著者の中國各地の「儼戲」調査に基づく假面劇と假面文化の研究

である。考古學的に論證した上で、假面の呪術性・巫祝の役割・機能を演繹してゆく。假面は、變化と不變すなわち假面を装着することによって瞬時に變身し、また魂魄の離散と外部から惡鬼の侵入を防止する意味があったと指摘する。假面は鬼つまり祖先神、生命の根元であって、子孫にとつての絕對者・守護者であり、死後間もない新鬼が幸福をもたらす守護靈となるには時間が必要とした。荒ぶる形相から福相への推移は、そうした中國人の思考を裏付けるものであると言つ結論を導き出す。假面を通して中國文明の在り方やものの見方に迫る。

研究者におけるそれぞれの専門での論著には、積年の成果が盛り込まれていると同時に、恐らくはそれに至るさまざまな試行錯誤や關連する周邊の研究があつたに相違ないという思いをつよくさせられる。廣く學ぶ姿勢あるいは研究對象にいかに向かふか、研究者と研究對象との間に横たわる諸相を描いた業績を最後に掲げる。

荒井健著『シャルパンティエの夢』（平成十五年七月、朋友書店）は、標題の文章を含む七章からなる文集である。文人と文人趣味、西遊記、錢鍾書の「結婚狂詩曲」について、陳寅恪と魯迅、著者の恩師である吉川幸次郎・小川環樹・入矢義高諸氏への思い、高橋和巳と「詩人の運命」書評等を含む。とくに、第一章文人と文人趣味についての文章は、傳統社會におけるいわゆる文人を考える際の多くの示唆に富む。

興膳宏著『古典中國からの眺め』（平成十五年九

月、研文出版）は、第一章が「古と今との出会い」を巻頭に置く古典文學にまつわる隨想、第二章は恩師・知友への思いを綴つた文章、第三章が「日本シロゾーの位置」を含む學會關係の記事といった三部構成からなる。學者の周邊と足跡を物語る。

堀誠著『流謫の花—中國の文學と生活』（平成十五年十一月、研文出版）は、標題の文章のほか「石崇と卽席佳饌」「相如の渴き」「河童の沙悟淨」「不在の友」「中國俗信考」「中國の狐たち」など二十一篇の論考からなる。著者は言う。「文化的な對比、そして異同の認識を手始めとして、自らの興味にしたがつてそのことを調べてみる。そこには系統性があるはずがなく、偶然の出会いこそが大切で、適宜その題材を勝手氣ままに探つた結果である」と。以上の諸書を通して感ずることは、まずは研究對象に親しみ、好きになり、楽しむことができたらば研究という營爲は持續でき、成果は上がるという自明な事柄を再確認させられる。さまざまな局面を通して展開される世界を、若き學徒には斯學のディシプリンとして讀み取ってほしい。

（赤井益久）